

---

# 人間科学部

児童学科

---

# 人間科学部 児童学科

## 人材の養成および 教育研究上の目的

人間科学部では、いのちを大切に、平和と環境を保持し、人類の持続可能な発展をもたらすため、「保育・教育」「発達・心理」「文化」「保健・福祉」「環境」について総合的に理解し、その向上に貢献できる豊かな感性としなやかな知性を具えた高い専門性を持つ自立する人材の養成を目的とする。(学則 第4条の2より)

## カリキュラムポリシー

### 教育課程の編成方針

人間科学部では、児童学科を置き、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。

1. 基礎的知識と基本的学習能力を獲得し、人間性の基盤となる豊かな教養を培うために、幅広い科目を設置する。
2. 基礎ゼミ、特別研究、卒業研究などの少人数制の科目を通して、主体的に学ぶ姿勢を育成し、専門性を高めることを目指す。その中で柔軟な思考力、問題解決力、自己表現力、コミュニケーション力などを培う。
3. 幼稚園教諭一種、保育士資格取得に必要な科目とともに、知識に偏重しない「体験型プログラム」を提供し、将来の保育者としての保育力・実践力を高める。
4. 「海外研修」「インターンシップ」「ボランティア」などの科目を通して、現代社会の多様な課題に取り組み、国際的な視点をもって探究する力を養う。

## ディプロマポリシー

### 学位授与の方針

所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（児童学）の学位を与える。

1. 豊かな人間性に根差した学際的教養と、「知」の基盤となる横断的基礎知識、児童の教育・保育および子育て支援の分野に関する専門的知識や技術を修得している。
2. 「体験型プログラム」を通して、豊かな自己表現力とコミュニケーション力を身につけ、「理論」と「実践」を総合的に応用することができる。
3. 児童学分野における真理探究のための主体的な学びから、柔軟な思考力、課題探究能力および問題解決力を修得している。
4. グローバルな視点から物事を考え、現代的課題に対応しうる倫理観および社会的責任を修得している。

## 備考

1. 子どもの最善の利益を考慮し、子どもの健やかな成長を促す人間性、倫理観、責任と自覚を持ち、その能力を常に高めていく意欲を有する人材を育成することが到達目標である。また児童学科では、学生は幼稚園教諭一種、保育士資格の取得を目指している。
2. カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーは、日本学術振興会の幼児教育・保育分野および文部科学省、厚生労働省が定める幼稚園教諭、保育士資格の要件を参照基準として準拠している。
3. 系統的な教育が達成されるように、また学生が学びの連続性を確認できるように学修要覧に履修モデルを掲載し、学修の「見える化」に努めている。
4. 児童学科のカリキュラムは、就学前教育・保育や子育て支援をめぐる社会的な要請と連動する形で構築している。子どもや子育てに関わる政策や制度の変化に照準をあて、それらと有機的連携が保たれるよう必要に応じてカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを改善できるシステム（カリキュラム改訂委員会等）を有している。

人間科学部 児童学科では、社会動向や多様なニーズに応え、乳幼児期の保育・教育および子育て支援等に適切かつ柔軟に対応できる人材の育成を目標として質の高い保育者養成に努めている。したがって、保育者としての資質、知識、技術を的確に身につけ、高い専門性をもった豊かな人間性と国際的なセンス、優れたコミュニケーション能力を実現するための教育課程の編成を行っている。基本的に児童学の5つの分野である児童福祉、児童発達・心理、児童保健、児童教育・保育、児童文化についての学識を深めるだけでなく、教養や語学能力の向上に努め、さらに、本学部独自の体験プログラムを通して実践力を養い、3年次の特別研究や4年次の卒業研究を通して、自らの力で課題発見・解決ができる力を養成する教育課程となっている。このような教育課程と並行して、学生が希望する具体的な進路に対応するために、国家資格である保育士や教育職員免許法に定められた幼稚園教諭一種免許の資格取得希望者に対応したカリキュラムも配置している。また、資格取得を希望せず児童関連の職業やその他の職種、大学院進学を希望する者にも対応できる編成にもなっている。

### 1. 人間科学部 児童学科設置の趣旨及び社会的要請

近年、社会的に福祉や教育について様々な取り組みが行われている。特に、少子化、核家族化、女性の社会進出に伴い、乳幼児期の保育・教育、子育て支援の分野に対する社会的要請が高くなっている。現在のわが国における保育・教育行政は、社会の大きな変革に伴って、保育所等の整備拡充が特に都市部において重要な課題となっている。その要因の一つとして、男女共同参画社会の概念が一般化し女性の社会参加が自然のこととなり、家庭で担ってきた子育てを、保育所をはじめとする社会的機関に委託する家庭が増加するなどの社会構造の変化があげられる。

平成15年11月の児童福祉法の改正により、保育士は名称独占資格とされ国家資格となった。保育士は「専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うこと」という使命が明記され、国家資格化に伴い、その責務の重さが明確化された。一方、幼稚園は平成19年6月の学校教育法の一部改正により、従来の条文の冒頭に「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして」という文言が挿入され、幼稚園が義務教育の前段階の教育機関としての位置づけが明らかとなった。また、学校教育法第1条の学校の定義においても、幼稚園が各学校の冒頭に記載され、幼稚園の教育機関としての存在意義が高い。今後の幼児教育のあり方について、時代の趨勢に鑑みた社会の幼稚園に対する新しい視点からの改革が進められている。また、保護者の要請に対応するため、保育所では延長保育、一時保育など、多様な保育サービスが展開されるようになってきた。同様に、幼稚園でも満3歳児の就園や教育時間終了後の預かり保育の制度が導入されている。さらに、認定こども園の制度が平成18年に施行され、内閣府によれば、平成30年4月1日には全国で6,160となっている。平成27年4月からは、平成24年8月に成立した子ども・子育て関連3法に伴い、子ども・子育て支援新制度がスタートし、幼保連携型認定こども園では保育教諭として保育士資格と幼稚園教諭免許の両方を持ち合わせている保育者が求められており、ほとんどの学生が保育士資格と幼稚園教諭一種免許状を取得している。

近年は保護者が安心して子育てができるよう保護者を支援していくことも保育者の重要な役割となっており、社会の動向や保育・幼児教育の現場の多様なニーズに応えられる保育者養成をめざし、本学部では常に教育課程の見直しをはかっている。また、外国籍の親子も増えており、国際的な広い視点から次世代を見据えた柔軟性の高いカリキュラムが求められるようになり、それらにも適応できる取り組みを積極的に行っている。海外研修や海外の大学との交流は見識を広めるよい機会となっている。

就職に関しては多様なニーズに応え、その支援体制を強化し、毎年就職率100%を目指してきめ細かな指導をし、目標を達成している。公務員（公立保育士を含む）への希望者が多く、例年高い合格率を維持していることも特筆すべき点である。また、保育者ばかりではなく、一般企業への就職希望者の指導も充実しており、学生の夢の実現に向けて支援している。卒業生は、それぞれの現場で活躍しており、とくに、在学中に培われたコミュニケーション能力、問題解決力の高さ等に対する社会からの評価は高い。

## 2. 人材育成の目標

わが国の少子化による影響は経済産業や社会保障の問題に留まらず、国や社会の存続基盤にかかわる重要な問題である。一方で、地球環境問題は、私たち人類の存続基盤にかかわる大きな問題である。このような背景の中で、いのちを大切に、生きる力を育み、平和と環境を堅持し、人類の持続可能な発展をもたらす社会が求められている。そこで、人間科学部では、保育・教育、発達・心理、文化、保健・福祉、環境等について総合的に理解し、その向上に貢献できる豊かな感性としなやかな知性を備えた、高い専門性を持つ自立した人材を養成する。すなわち、豊かで平和な社会生活の実現とその持続をめざして「未来を担う人間のこころ豊かな成長を科学する」を理念とし、「理論」と「実践」がしっかりと身につけている人材や人間力の育成を第一に考える。

学位（児童学）については、修業年限以上在籍し所定の単位数を修得するとともに、次に掲げる知識や素質を身に付けた学生に対して授与される。①豊かな人間性に根差した学際的教養と、「知」の基盤となる横断的基礎知識、児童の教育・保育および子育て支援の分野に関する専門的知識や技術を修得している。②「体験型プログラム」を通して、豊かな自己表現力とコミュニケーション力を身につけ、「理論」と「実践」を総合的に応用することができる。③児童学分野における真理探究のための主体的な学びから、柔軟な思考力、課題探究能力および問題解決力を修得している。④グローバルな視点から物事を考え、現代的課題に対応しうる倫理観および社会的責任を修得している。

## 3. 人間科学部 児童学科での学びの特色

人間科学部 児童学科では社会のニーズに応えた質の高い人材養成を行っている。授業において、アクティブ・ラーニング、PBL（問題解決型授業）などを導入し、その他にもさまざまな直接体験を通じた教育を行っている。それは、特に保育者を目指す学生にとって、子どもに必要とされる自主性・創造性を育てるために、環境などを通して保育・教育を実践できる力を培うことにつながっている。

本学部では、以下の4つの方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。①基礎的知識と基本的学習能力を獲得し、人間性の基盤となる豊かな教養を培うために、幅広く科目を履修できるよう教養科目の全学共通化を図る。②幼稚園教諭一種免許、保育士資格取得に必要な科目とともに、知識に偏重しない「子育て支援体験」「生活と自然体験」「異文化理解体験」「児童文化・自己表現体験」など「体験型プログラム」を提供し、将来の保育者としての保育力・実践力を高める。③基礎ゼミ、特別研究、卒業研究などの少人数制の科目を通して、主体的に学び、自主的に研究を進める姿勢を育成し、専門性を高めることを目指す。その中で、柔軟な思考力、問題解決力、自己表現力、コミュニケーション力などを培う。④「海外研修」「インターンシップ」「ボランティア」などの科目を通して、ESD（持続可能な開発のための教育）など今日的課題に取り組み、国際的な視野からも探究する力を養う。

学びの特色としては、他大学での取り組みの先駆となった独創的な以下の4つの体験型プログラムを有している。

### (1) 生活と自然体験

子どもは五感を駆使して自然とかわり、いろいろな発見をし、感動する。1年次配当科目の「子どもと環境（演習）」において、日常生活の中で感性を豊かにする体験をした上で、大学近くの自然豊かな等々力溪谷などで自然環境に親しみ、「気づくこと」「感じること」を会得する。また、2年次配当科目である「食農文化と子育て（演習）」では、近隣の畑での農業体験を通して人が協同することの大切さと食育の基本概念を学ぶ。食農文化は、幼児期からの心の教育として大切であり、いのちの大切さ、作物を栽培する楽しさ、収穫の喜び、人と自然の調和等を習得すると同時に、生活の中で実践・展開できる「持続可能な環境と社会を担う人間」に必要な基礎力を培う。

### (2) 子育て支援体験

学部内施設の子育て支援センター『ぴっぴ』を活用した体験学習は、本学部の大きな魅力となっている。『ぴっぴ』は全国の大学に先駆けて独自に創設された「親子の遊び場」であり、地域社会に開放されている。利用者は1日100名以上であり、親と子の遊び場であるばかりでなく、親同士のコミュニケーションの場ともなっている。平成30年度には、

---

利用者が延べ 30 万人を越えた。このような保育現場で 2 年生以上の学生は、「子育て支援演習」を通して学内において日常的に研修することができる。2 年生から 4 年生にかけて、親子を観察し、親子とかかわり、保護者支援のニーズが高まる中、高い専門性をもった地域の子育て支援者になれるよう指導している。なお、この『ぴっぴ』の活動を活用した教育プログラムは、わが国の保育士養成施設や文部科学省、厚生労働省などの行政からも注目され、全国からの見学者も多く、学部におけるユニークな取り組みとしてだけでなく大学全体の評価を高める要因となっている。平成 28 年度に実施された大学基準協会での調査においても、高い評価を得た。

### (3) 異文化理解体験

社会のグローバル化に対応するため、英語力を強化すると同時に他国語「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」「イタリア語」「中国語」「アラビア語」「韓国語」の科目を配当し、受講することができる。また、教養科目の「国際化と異文化理解」、「日本文化の伝承」をはじめとしてさまざまなグローバル化に対応した教養科目を配置している。平成 22 年にニュージーランドのカンタベリー大学と大学間協定を締結、また平成 26 年にはオーストラリアのウーロンゴン大学教育学部と大学間協定を締結し、2 年次科目の海外研修にて春休み期間に現地での幼児教育研修や学生の交換プログラム、学術的交流などが行われている。その他、毎年、国内外の著名な研究者等を招聘し、学術講演会を開き、異文化理解の一助になっている。さらに、平成 28 年度より TAP に参加し、グローバルな人材育成を推進している。

### (4) 児童文化、自己表現体験

特別施設「スタジオ・シアター」は国内の児童関連学部でも例を見ない本格的な多目的施設で、そこでは児童演劇、ドラマ、ダンスなどの表現に関する演習授業が行われる。具体的には、「保育内容の理解と方法（身体表現）（言語表現）」「保育内容表現指導法」「子どもの身体表現指導法」などの科目である。これらの教育内容は、就学前教育を遂行する保育者としての感性を高め、コミュニケーション力と自己表現力豊かな人材育成に資するものである。

このように、本学部においては、子どもや保護者とかかわるための基本である豊かなコミュニケーション力を、さまざまな場面で高める機会を設定している。さらに、「インターンシップ」では、総合的なコミュニケーション力が要求される。また、直接子どもや保護者とかかわることができる様々な「ボランティア」活動や国内外におけるインターンシップを積極的に奨励し、これら就学前教育を担う保育者の最大の資質の一つであるコミュニケーション力を涵養すると同時に、理論と実践を兼ね備えた保育者、高い人間力を養成することに尽力している。

区分	科目群	授業科目	必選の別	単位数	資格区分		週時間数								担当者 (平成31年度現在)	科目 ナンバ リング
					保育士	幼免	1年		2年		3年		4年			
							前	後	前	後	前	後	前	後		
001	人文学系	哲学(1)	G 講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-111	
002		哲学(2)	G 講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-112	
003		倫理学(1)	講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-113	
004		倫理学(2)	講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-114	
005		倫理学	講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-115	
006		文化人類学	講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-116	
007		視覚芸術史(1)	G 講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-117	
008		視覚芸術史(2)	G 講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-118	
009		デザイン概論(1)	G 講義	2	—	—		2						他キャンパス開講	00-211	
010		デザイン概論(2)	G 講義	2	—	—			2					他キャンパス開講	00-212	
011		日本文学	G 講義	2	—	—			2					木内英実	00-213	
012		日本史(1)	G 講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-11F	
013		日本史(2)	G 講義	2	—	—		2						他キャンパス開講	00-11G	
014		西洋史(1)	G 講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-11A	
015		西洋史(2)	G 講義	2	—	—		2						他キャンパス開講	00-11B	
016		民俗学	G 講義	2	—	—		2						他キャンパス開講	00-11C	
017		宗教学	G 講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-11E	
018	社会科学系	社会学(1)	講義	2	—	—	2							塚田修一	00-121	
019		社会学(2)	講義	2	—	—		2						塚田修一	00-122	
020		社会学入門	講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-123	
021		経済学(1)	講義	2	—	—	2							伊藤潤平	00-124	
022		経済学(2)	講義	2	—	—		2						伊藤潤平	00-125	
023		日本経済論	G 講義	2	—	—				2				他キャンパス開講	00-321	
024		政治学(1)	講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-126	
025		政治学(2)	講義	2	—	—		2						他キャンパス開講	00-127	
026		日本の政治	G 講義	2	—	—			2					他キャンパス開講	00-221	
027		国際関係論(1)	G 講義	2	—	—	2							宮下大夢	00-128	
028		国際関係論(2)	G 講義	2	—	—		2						宮下大夢	00-129	
029		日本国憲法	講義	2	—	○	2							高橋明弘	00-12A	
030		法学	講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-12B	
031		民法	講義	2	—	—		2						他キャンパス開講	00-12C	
032		西洋経済史	G 講義	2	—	—	(2)	2						他キャンパス開講	00-12E	
033		人文地理学	講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-12F	
034		現代中国論	G 講義	2	—	—		2						他キャンパス開講	00-12G	
035	人間科学系	教育学(1)	講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-131	
036		教育学(2)	講義	2	—	—		2						他キャンパス開講	00-132	
037		スポーツ・健康論	講義	2	—	—	2	(2)						他キャンパス開講	00-133	
038		心理学(1)	講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-136	
039		心理学(2)	講義	2	—	—		2						他キャンパス開講	00-137	
040		心理学概論	講義	2	—	—	2							森山徹	00-138	
041		心理学入門	講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-139	
042		社会とジェンダー	講義	2	—	—		2						他キャンパス開講	00-13A	
043		国際化と異文化理解	G 講義	2	—	—				2				山中美子	00-331	
044		日本文化の伝承	G 講義	2	—	—		2						榎本宗白	00-13B	
045	自然・情報科学系	論理学(1)	講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-141	
046		論理学(2)	講義	2	—	—		2						他キャンパス開講	00-142	
047		生活とメディア	講義	2	—	—			2					松浦李恵	00-242	
048		公衆衛生学	講義	2	—	—				2				早坂信哉	00-341	
049		現代の物理	講義	1	—	—			2					他キャンパス開講	00-143	
050		科学技術と社会	講義	1	—	—				2				他キャンパス開講	00-241	
051		情報処理演習(1)	演習	○	1	○	○	2						須藤智亜紀	00-14B	
052		情報処理演習(2)	演習	○	1	○	○		2					須藤智亜紀	00-14C	
053		情報処理演習(3)	演習	1	—	—				2				須藤智亜紀	00-243	
054		情報処理演習(4)	演習	1	—	—				2				須藤智亜紀	00-244	

G：国際化（グローバル化）に対応した教養科目

「教養科目」において、「海外の歴史と文化」「我が国の歴史と文化」に関連し、国際化（グローバル化）に対応した教養となる科目に「G」を付している。

注：週時間数の欄に記載されている数字は授業の時間数を表し、100分を2時間（1コマ）としてカウントする。

単位数の計算もこの原則に基づいて行う（「1-2.単位数」の項参照）。

区分	科目群	授業科目	必 選 の 別	単 位 数	資格区分		週 時 間 数								担 当 者 (平成31年度現在)	科目 ナンバ リング		
					保 育 士	幼 免	1年		2年		3年		4年					
							前	後	前	後	前	後	前	後				
055	教養科目	その他	PBLによる産学協働演習	講義	2	—	—	2							他キャンパス開講	00-151		
056			ボランティア(1)	実習	1	—	—								早坂信哉	00-951		
057			ボランティア(2)	実習	1	—	—								早坂信哉	00-952		
058			教養ゼミナール(1)	演習	2	—	—	2	(2)	教養ゼミナールと教養特別講義は、各4単位まで「教養科目」区分の卒業要件として算入できる。それぞれ4単位を超える同科目の単位は、卒業要件に算入できない。科目詳細は、シラバスを参照すること。				別指定	00-953			
059			教養ゼミナール(2)	演習	2	—	—	2	(2)					別指定	00-954			
060			教養特別講義(1)	講義	2	—	—	2	(2)					別指定	00-955			
061	教養特別講義(2)	講義	2	—	—	2	(2)	別指定	00-956									
062	英語科目 (スキル)	英語科目 (スキル)	Communication Skills(1)	演習	○	1	○	○	2						杉本裕代, 染谷昌弘	02-111		
063			Communication Skills(2)	演習	○	1	○	○		2						杉本裕代, 染谷昌弘	02-113	
064			Reading and Writing(1)	演習	○	1	○	—		2						植野貴志子, 出野由紀子	02-115	
065			Reading and Writing(2)	演習	○	1	○	—		2						植野貴志子, 出野由紀子	02-117	
066			Basic English Training	演習		2	—	—			2	(2)				他キャンパス開講	02-211	
067			Grammar(1)	演習		2	—	—			2	(2)				他キャンパス開講	02-213	
068			Grammar(2)	演習		2	—	—			2	(2)				他キャンパス開講	02-215	
069			Test Taking Skills(1)	演習		2	—	—			2	(2)				他キャンパス開講	02-217	
070			Test Taking Skills(2)	演習		2	—	—			2	(2)				他キャンパス開講	02-219	
071			Test Taking Skills(3)	演習		2	—	—			2	(2)				他キャンパス開講	02-311	
072			Critical Reading(1)	演習		2	—	—			2	(2)				他キャンパス開講	02-21B	
073			Critical Reading(2)	演習		2	—	—			2	(2)				他キャンパス開講	02-21D	
074			Critical Reading(3)	演習		2	—	—			2	(2)				他キャンパス開講	02-313	
075			Critical Listening(1)	演習		2	—	—			2	(2)				他キャンパス開講	02-21F	
076			Critical Listening(2)	演習		2	—	—			2	(2)				他キャンパス開講	02-21H	
077			Critical Listening(3)	演習		2	—	—			2	(2)				杉本裕代	02-315	
078			Communication Strategies(1)	演習		2	—	—			2	(2)				他キャンパス開講	02-21J	
079			Communication Strategies(2)	演習		2	—	—			2	(2)				他キャンパス開講	02-21L	
080			Communication Strategies(3)	演習		2	—	—			2	(2)				他キャンパス開講	02-317	
081			Academic English(1)	演習		2	—	—			2	(2)				他キャンパス開講	02-21N	
082			Academic English(2)	演習		2	—	—			2	(2)				他キャンパス開講	02-21P	
083			Academic English(3)	演習		2	—	—			2	(2)				他キャンパス開講	02-319	
084			英語科目 (教養)	英語科目 (教養)	Literature in English(1)	演習		2	—	—		2	(2)				杉本裕代	02-221
085					Literature in English(2)	演習		2	—	—		2	(2)				他キャンパス開講	02-223
086					Global Culture(1)	演習		2	—	—		2	(2)				他キャンパス開講	02-225
087					Global Culture(2)	演習		2	—	—		2	(2)				他キャンパス開講	02-227
088	Language Sciences(1)	演習				2	—	—		2	(2)				他キャンパス開講	02-229		
089	Language Sciences(2)	演習				2	—	—		2	(2)				他キャンパス開講	02-22B		
090	Global Society(1)	演習	2	—	—			2	(2)					他キャンパス開講	02-22D			
091																Global Society(2)	演習	2
092	共通	海外・特別選抜セミナー	演習	2	—	—		2	(2)					他キャンパス開講	02-931			
093																外国語特別講義	演習	2
094	英語以外の 外国語科目	英語以外の 外国語科目	ドイツ語(1)	演習		2	—	—		2	(2)				他キャンパス開講	02-241		
095			ドイツ語(2)	演習		2	—	—		2	(2)				他キャンパス開講	02-243		
096			フランス語(1)	演習		2	—	—		2	(2)				他キャンパス開講	02-245		
097			フランス語(2)	演習		2	—	—		2	(2)				他キャンパス開講	02-247		
098			スペイン語(1)	演習		2	—	—		2	(2)				他キャンパス開講	02-249		
099			スペイン語(2)	演習		2	—	—		2	(2)				他キャンパス開講	02-24B		
100			イタリア語(1)	演習		2	—	—		2	(2)				他キャンパス開講	02-24D		
101			イタリア語(2)	演習		2	—	—		2	(2)				他キャンパス開講	02-24F		
102			中国語(1)	演習		2	—	—		2	(2)				他キャンパス開講	02-24H		
103			中国語(2)	演習		2	—	—		2	(2)				他キャンパス開講	02-24J		
104			アラビア語(1)	演習		2	—	—		2	(2)				他キャンパス開講	02-24L		
105			アラビア語(2)	演習		2	—	—		2	(2)				他キャンパス開講	02-24N		
106			韓国語(1)	演習		2	—	—		2	(2)				長渡陽一	02-24P		
107			韓国語(2)	演習		2	—	—		2	(2)				長渡陽一	02-24R		
108	日本語表現	演習		2	—	—		2	(2)				他キャンパス開講	02-24T				

# H31 人間科学部 児童学科 教育課程表 2

○印必修 △印選択必修

区分	科目群	授業科目	必選の別	単位数	資格区分		週時間数								担当者 (平成31年度現在)	科目 ナンバ リング
					保育士	幼児	1年		2年		3年		4年			
							前	後	前	後	前	後	前	後		
109	体育科目	人間と健康	講義	○	2	○	—	2							高橋うらら	01-113
110		健康と運動(1)	実技		1	○	○	2							長堂益丈	01-114
111		健康と運動(2)	実技		1	○	○		2						高橋うらら	01-115
112	専門科目	保育原理	講義	○	2	○	—	2							横山草介	51-221
113		教育原理	講義	○	2	○	○		2						横山草介	51-222
114		教育社会学	講義		2		○		2						横山草介	51-223
115		子ども家庭福祉	講義	○	2	○	—	2							野澤義隆	51-261
116		社会福祉	講義		2	○	—			2					野澤義隆	51-262
117		社会的養護(1)	講義		2	○	—		2						野澤義隆	51-263
118		保育者論	講義		2	○	○				2				園田巖	51-341
119		発達心理学(1)	講義	○	2	○	○	2							井戸ゆかり	51-224
120		教育心理学	講義		2	○	○			2					紺野道子	51-321
121		子ども家庭支援の心理学	講義		2	○	—			2					井戸ゆかり	51-322
122		子ども理解の理論と方法	演習		2	○	○				2				井戸ゆかり, 亀田佐知子	51-361
123		子どもの保健と健康	講義		2	○	○			2					早坂信哉・高橋うらら	51-371
124		子どもの安全と健康	演習		1	○	—			2					玉内裕美	51-372
125		子どもの食と栄養	演習		2	○	—	2							早坂信哉・西中川まき	51-271
126		子ども家庭支援論	講義		2	○	—			2					野澤義隆	51-264
127		保育の計画と評価	講義		2	○	—			2					室井眞紀子	51-342
128		カリキュラム論	講義		2		○					2			横山草介	51-343
129		保育内容総論	演習		2	○	○			2					原田留美	51-344
130		保育内容健康指導法	演習		2	○	○					2			高橋うらら	51-345
131		保育内容人間関係指導法	演習		2	○	○			2					大野和男	51-346
132		保育内容環境指導法	演習		2	○	○				2				松橋圭子	51-347
133		保育内容言葉指導法	演習		2	○	○			2					原田留美	51-348
134		保育内容表現指導法	演習		2	○	○			2					小林由利子	51-349
135		乳児保育(1)	講義		2	○	—	2							井戸ゆかり, 亀田佐知子	51-265
136		乳児保育(2)	演習		2	○	—				2				浅見佳子	51-362
137		特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援	演習		2	○	○			2					園田巖, 紺野道子	51-266
138		社会的養護(2)	演習		1	○	—					1			園田巖	51-363
139		子育て支援	演習		2	○	—					2			園田巖	51-364
140		保育内容の理解と方法(音楽表現)	演習		1	○	○			2					岩田遵子	51-34A
141		保育内容の理解と方法(造形表現)	演習		1	○	○	2							大塚習平	51-241
142		保育内容の理解と方法(身体表現)	演習		1	○	○			2					高橋うらら	51-242
143		保育内容の理解と方法(言語表現)	演習		1	○	○	2							小林由利子	51-243
144		<b>保育実習(1)(保育所・施設)</b>	実習		4	○	—				4				園田, 野澤, 室井	51-3B1
145	保育実習指導(1)(保育所)	演習		1	○	—				2				園田巖, 室井眞喜子	51-3B2	
146	保育実習指導(1)(施設)	演習		1	○	—				2				野澤義隆, 原田留美	51-3B3	
147	<b>保育実習(2)(保育所)</b>	実習		2	△	—					2			園田巖, 室井眞紀子	51-4B1	
148	保育実習指導(2)(保育所)	演習		1	△	—					2			園田巖	51-4B2	
149	<b>保育実習(3)(施設)</b>	実習		2	△	—					2			野澤義隆	51-4B3	
150	保育実習指導(3)(施設)	演習		1	△	—					2			野澤義隆	51-4B4	
151	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習		2	○	○						2		横山, 紺野, 園田, 大野, 松橋, 室井	51-4B5	

## ※保育実習の履修組合せ

	実 習	実習準備授業科目	開講時期・実習時期
○必修として「保育所」「施設」の両方の実習を行う	保育実習(1)(保育所・施設)	保育実習指導(1)(保育所) 保育実習指導(1)(施設)	3年前期
△選択必修として「保育所」または「施設」のどちらかの実習を行う。	保育実習(2)(保育所) 保育実習(3)(施設)	保育実習指導(2)(保育所) 保育実習指導(3)(施設)	4年前期

注：週時間数の欄に記載されている数字は授業の時間数を表し、100分を2時間（1コマ）としてカウントする。

単位数の計算もこの原則に基づいて行う（「1-2.単位数」の項参照）。

区分	科目群	授業科目	必選の別	単位数	資格区分		週時間数								担当者 (平成31年度現在)	科目ナンバリング
					保育士	幼児	1年		2年		3年		4年			
							前	後	前	後	前	後	前	後		
152		発達心理学(2)	演習	2	—	—			2						紺野道子	51-323
153		臨床心理学	演習	2	—	—						2			紺野道子	51-421
154		音楽実技入門	演習	2	—	—	2								岩田,安藤,上野,小寺,江口	51-244
155		音楽実技(1)	演習	2	○	—	2								岩田,安藤,上野,小寺,江口	51-245
156		音楽実技(2)	演習	2	—	—			2						岩田,平岩,上野,小寺,島内,杉浦	51-34B
157		造形	演習	2	—	—			2						大塚習平	51-246
158		児童文化	演習	2	—	—	2								大野和男	51-281
159		子どもと昔話	講義	2	—	—					2				原田留美	51-282
160		手話	演習	2	—	—	2								新井孝昭	51-191
161		子どもと人間関係	演習	2	—	○	2								大野和男	51-283
162		子どもと言葉	演習	2	—	○			2						木内英実	51-284
163		教育学概論	講義	2	—	—		2							横山草介	51-225
164		子どもの造形表現指導法	演習	2	—	△					2				大塚習平	51-34C
165		子どもの身体表現指導法	演習	2	—	△					2				高橋うらら	51-34D
166		子どもの音楽表現指導法	演習	2	—	△					2				岩田遵子	51-34E
167		幼児教育方法論	講義	2	—	○					2				室井眞紀子	51-34F
168		教育相談	講義	2	—	○					2				紺野道子	51-365
169		<b>幼稚園教育実習(1)</b>	実習	2	—	○				2					大塚,木内,松橋	51-3B4
170		幼稚園教育実習指導(1)	演習	1	—	○				2					大塚,木内,松橋	51-3B5
171		<b>幼稚園教育実習(2)</b>	実習	2	—	○					2				大塚,木内,松橋	51-4B6
172		幼稚園教育実習指導(2)	演習	1	—	○					1				大塚,木内,松橋	51-4B7
173		キャリアデザイン(1)	演習	1	—	—					1				木内英実	51-2A1
174		キャリアデザイン(2)	演習	1	—	—						1			木内英実	51-2A2
175		インターンシップ(1)	実習	1	—	—									木内英実	51-3A1
176		インターンシップ(2)	実習	1	—	—									木内英実	51-3A2
177		子どもと環境	演習	2	—	○	2								松橋圭子, 大野和男	51-285
178		海外研修	演習	2	—	—				2					小林由利子, 室井眞紀子	51-391
179		子育て支援演習	演習	2	○	—			1	1	1	1	1	1	野澤, 大野, 松橋	51-3B6
180		食農文化と子育て(1)	演習	2	○	—			2						野村明洋	51-272
181		食農文化と子育て(2)	演習	2	—	—				2					関山隆一	51-273
182		児童学入門	講義	○	2	○	2								全教員	51-111
183		基礎ゼミ	演習	○	2	○	2								全教員	51-211
184		特別研究	演習	○	4	○	—				2	2			全教員	51-311
185		卒業研究	演習	○	6	○	—								全教員	51-411

「—」は、資格取得要件としては対象外となる科目。  
資格取得の詳細は、別途資格取得のための要綱を参照すること。

注 卒業必要単位数は下表のとおりとする。

合計	1 2 4 単位	以下を含むこと
教養科目		
外国語科目	2 0 単位	右記を含むこと ○必修 8 単位
体育科目		(外国語 選択 4 単位を含む)
専門科目	9 0 単位	右記を含むこと ○必修 2 2 単位

科目ナンバリング： YY-LMD

YY:科目区分	51:児童学科 専門科目				
L:レベル	1:入門	2:基礎	3:応用	4:卒業研究	5:その他
M:科目群	1:児童学研究	2:保育・心理	3:体育	4:保育内容	5:情報
	6:福祉	7:保健	8:文化	9:国際・他文化	A:キャリア
	B:実習				
D:識別番号					

# 履修要綱

履修要綱は本学学則第5章及び第8章に基づいて定められたものである。従って、学生は授業を受けるにあたっては、特にこれを熟読しなければならないものである。

## 1. 単位について

### 1. 単位制度

本学の教育課程は単位制度に基づいて編成されており、学修の基本でもあるので、単位制度の本質を十分に理解する必要がある。単位は履修した科目の学力が一定レベルに達したときに与えられるもので、そのレベルに達するためには教室内で授業を受けるだけでは不十分であり、予習、復習、宿題などの自学自習を必要とする。

大学の授業は講義、演習、実験、実習及び実技等の方法で行われ、各授業科目の単位数は、1単位の履修時間を教室内及び教室外を合わせて45時間として、学則第18条の基準に従って計算されるが、本学では講義および演習については、2時間の授業に対して4時間の自学自習を行わせることを基準にしている。

なお、本学人間科学部を卒業するためには4年以上在学して総計124単位以上を修得しなければならない。

### 2. 単位数

授業の方法によって授業時間に対する自学自習の必要時間が異なるので、週1時限(2時間)の授業に対して与えられる単位数は次のとおりである。(学則第18条参照)

#### (1) 講義・演習

2時間の授業、4時間の自学自習、週1回半期15週では、

$$(2+4) \times 15 = 90 \text{時間} \quad 90 \div 45 = 2 \text{単位}$$

通年30週の場合は4単位

#### (2) 実験・実習・製図・実技

2時間の授業、1時間の自学自習、週1回半期15週では、

$$(2+1) \times 15 = 45 \text{時間} \quad 45 \div 45 = 1 \text{単位}$$

ただし、授業時間外の自習によって準備または整理を行う必要のある科目については、その程度に応じて単位数を増加してある。

また、学則第18条の2に基づき、各授業科目の授業は、10週または15週にわたる期間とするものの、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげる場合、この期間を変更する場合がある。科目によってはクォーター開講(前学期・後学期をさらに分割した期間で開講)する場合があるが、詳細は授業時間表で確認すること。

### 3. 単位の授与

各授業科目を履修した者に対して、試験(中間試験その他の評価を含む)によりその成果を判定した上で単位を与える。この場合の履修とは単位制度に基づくものであって、所定の単位を修得するためには必要な時間数の授業を受けていなければならないことは勿論、定められた時間数の自学自習が行われていなければならない。

なお、履修したが合格点に達しないため単位を与えられなかった科目のうち、単位を修得しておかなければならない科目は、次年度以降に低学年の授業時間表に従って再履修しなければならない。

## 2. 授業科目について

### 1. 科目の区分

授業科目はその内容により、「教養科目」「外国語科目」「体育科目」「専門科目」の各区分に分ける。それぞれに属する各授業科目については“教育課程表”に記載されているので同表を参照すること。

また、「保育士」資格および「幼稚園教諭一種免許状」取得のためには、別途、当該資格を取得するための履修要綱を参照し、これに基づき必要な単位を修得すること。

## 2. 科目の種類

授業科目は必修科目，選択必修科目，および選択科目に分ける。その定義は次のとおりである。

- (1) 必修科目……………必ず履修しなければならない科目（教育課程表中の○印）
- (2) 選択必修科目……学科で指定された科目の中から選択して履修しなければならない科目（教育課程表中の△印）
- (3) 選択科目……………自由に選択して履修できる科目（教育課程表中の無印）

なお，科目の選択は各自の履修上慎重な配慮を要するものなので，選択にあたっては必ず3－3の履修方針の作成の項を参照すること。

## 3. 履修について

### 1. 卒業の要件

本学を卒業するためには4年以上在学して，次の表に従ってそれぞれの区分の単位を修得する必要がある。なお，この表は各自の履修の基準になるので学年始毎に参照すること。

区 分	卒 業 要 件	
教養科目	20単位	必修科目（○印）8単位を含む。
外国語科目		
体育科目		
専門科目	90単位	必修科目（○印）22単位を含む。
小 計	110単位	
自由選択※	14単位	※自由選択として，各区分の卒業要件を超える分を合算して
合 計	124単位以上	14単位以上修得しなければならない。

### 2. 履修科目区分

**教養科目** 「教養科目」区分は，「外国語科目」「体育科目」区分とあわせて，20単位以上を修得しなければならない。「保育士」資格取得のためには「情報処理演習(1)」「同(2)」が必修であり，また，「幼稚園教諭一種免許状」取得のためには「情報処理演習(1)」「同(2)」「日本国憲法」が必修となるので留意すること。

**外国語科目** 「外国語科目」区分は，「教養科目」「体育科目」区分とあわせて，20単位以上を修得しなければならない。その中で「外国語科目」は，必修4単位と選択科目として，必修科目以外の英語科目（スキル），英語科目（教養），共通科目，ドイツ語，フランス語，スペイン語，イタリア語，中国語，アラビア語，韓国語，日本語表現の中から4単位を修得することで，必要最小単位数を充たすことになる。また，「保育士」資格取得のためには「Communication Skills(1)」「同(2)」「Reading and Writing(1)」「同(2)」が必修であり，「幼稚園教諭一種免許状」取得のためには「Communication Skills(1)」「同(2)」が必修となるので留意すること。

**体育科目** 「体育科目」区分は，「教養科目」「外国語科目」区分とあわせて，20単位以上を修得しなければならない。「保育士」資格取得のためには「人間と健康」「健康と運動(1)」「同(2)」が必修であり，また，「幼稚園教諭一種免許状」取得のためには「健康と運動(1)」「同(2)」が必修となるので留意すること。

**専門科目** 「専門科目」区分における，必要最少単位数は90単位である。必修科目・選択必修科目等について留意すること。また，「保育士」資格および「幼稚園教諭一種免許状」取得のためには別表に従うこと。

**自由選択** 上記4区分の必要最少単位数の小計は110単位となるが，卒業要件を充たすには，各区分の必要最少単位数を超えた分を合算して14単位以上取得しなければならない，この14単位分を「自由選択」とする。これにより，卒業要件は合計124単位となる。

### 3. 履修方針の作成

- (1) 学期の始めに当たっては、「教授要目」を熟読するとともに入学した年度の教育課程表を充分理解した上で、各自一年間の履修方針を定めること。
- (2) 当該年度に組まれている授業時間表に基づいて、必修科目、選択必修科目、選択科目の順に、履修方針に基づいて選択し、履修申告をしなければならない。
- (3) 自学自習に多くの時間を要する単位制度のもとでは、授業時間表に組まれている選択科目の全部について履修することはむずかしいので、科目選択に当たっては、クラス担任教員等の助言を受けて、適正に選択することが必要である。
- (4) 所属学年に組まれている授業科目はその学年で修得するよう努力すべきである。次の年度で再履修しようとしても授業時間や試験時間が重複して履修できない場合があるからである。また、学年進行に伴うカリキュラム変更等により、当該年度の開講をもって廃止となる場合や新規に開講する科目に振替える場合があるので、各自キャンパス内掲示板やポータルサイト等で十分に確認、注意をすること。

### 4. 履修登録の流れ

履修登録とは、その学期に履修する科目を登録することである。登録はWEB上から指示された日までに必ず行うことが必要である。この手続を経ない科目は、受講の上、試験に合格しても単位は与えられない。以下は、履修登録に関する各学期の流れである。

- (1) 履修科目の選択・調整期間  
学期開始から履修登録までに1～2週間の期間がある。この期間は、前述3の履修方針にあわせて「学修要覧」「教授要目」等を参考にしながら、実際に授業に出席することで、自分の履修科目を選択し確定するためのものである。なお、この期間に履修者を調整する科目もある。履修登録前に履修者を確定する場合もあるので、1週目の授業は特に重要である。
- (2) 履修科目の登録  
履修登録はWEB上から行う。なお、登録期間後の履修科目の追加はできない。また、本人の不備による履修登録の誤りは、すべて自己の責任となるので、特に慎重な注意が必要である。  
他学部や他学科、他大学などの科目を履修する場合には、WEB上での登録ではなく、別途所定用紙（特別履修科目履修申告書など）により提出する。科目によっては担当者の許可印を必要とする場合もある。
- (3) 履修登録の確認  
履修登録の1～2週間後、履修科目が正しく登録できているか否かを確認する機会を設けている。
- (4) クォーター開講科目の履修登録  
科目によってはクォーター開講（前学期・後学期をさらに分割した期間で開講）する場合があるが、履修登録の手続きについては「前学期」「後学期」として学期ごとに行う必要があるので注意すること。
- (5) 大学院先行履修制度  
本大学では、学部在学中に、大学院修士課程の授業科目を先行履修することができる。（ただし在学年次、受講資格等制限がある）。  
なお、本大学院に進学後、各研究科各専攻において、修得した単位を「10単位」を超えない範囲で認定することができる。申請手続等詳細については、事務局で確認すること。

### 5. 習熟度別クラス編成・履修免除

英語科目においては、入学後オリエンテーション期間内で実施する基礎学力調査の結果により、習熟度別に編成したクラスを指定する場合や、履修を免除する場合がある。詳細は、別途配布される「授業時間表」の注意事項を参照すること。

## 6. 履修登録単位数の制限

### (1) 履修登録単位数の上限

1学期あたりの履修登録単位数は24単位を上限とする。

なお、通年科目については、単位数に1/2を乗じた値を1学期分の単位数とする。

### (2) 履修登録単位数の上限対象外とする科目

「保育士」資格および「幼稚園教諭一種免許状」取得のために必要な科目（教育課程表の「資格区分」において「○」「△」印の科目）については、履修登録単位数の制限内に含まない。

また、「集中講義系科目」「学外実習系科目」「教職に関する科目」「卒業要件非加算科目」についても、履修登録単位数の制限内に含まない。具体的な科目については、事務局に確認すること。

## 7. 履修登録上の注意事項

### (1) 「履修登録」

「履修登録」は、WEB上から行う。他学部、他大学などの科目を履修する場合は、WEB上での登録ではなく別途所定用紙による登録が必要である。

### (2) “再履修”とは

過去に不合格になった科目を、再度履修することを“再履修”として扱う。

### (3) 合格科目の再履修はできない

既に合格（単位取得）した科目を再度履修することはできない。（すなわち一度履修して合格した科目の成績評価は変更できない）

### (4) 高学年配当科目の履修はできない

自己の学年よりも高学年に配当されている科目は履修できない。

### (5) 履修者指定のある科目に注意

科目によっては、所属学科・クラス・班などによる履修者指定をしている場合がある。また、授業開始前の希望者事前審査や、授業開始時の出席により、受講者指定や人数制限をする科目もある。

### (6) 2年次以降の履修申告の際には、さらに、次のことに注意すること。

- ・履修する科目は初めての履修、再履修を問わず、すべて登録すること。
- ・低学年の必修科目と所属学年に配当されている必修科目の授業時間が重複している場合は、低学年の科目を優先して履修すること。

### (7) 他学部・他大学の科目の履修について

他学部や他学科、他大学などの科目を履修する場合についてはWEB上での登録ではなく別途申請が必要となる。詳細は「15. 他学部・他大学の科目の履修」を参照すること。

## 4. 卒業と同時に「保育士」資格・「幼稚園教諭一種免許状」を取得することについて

人間科学部児童学科では、卒業と同時に「保育士」「幼稚園教諭一種免許状」を取得することができるが、このためには、それぞれの要件を同時に満たす必要がある。各参照ページを十分に理解し、計画的に単位を修得すること。

### 1. 「卒業」するための要件

#### (1) 参照ページ

P. 48～51 —— 教育課程表

P. 52～61 —— 履修要綱

## (2) 注意事項

「保育士」や「幼稚園教諭一種免許状」の取得には、卒業に必要な単位を修得することが前提となる。  
卒業するための要件は何よりも重要なので、「教育課程表」「履修要綱」に基づき、単位を修得すること。

**2. 「保育士」資格を取得するための要件**

## (1) 参照ページ

P. 67～70——「保育士」資格の取得について

## (2) 注意事項

人間科学部児童学科で担当している全 185 科目は、「児童福祉法施行規則に基づく履修科目」に該当する。これらを“告示による教科目（系列）”ごとに“当該養成施設における教科の開設状況”として一覧にしたのが、P. 68～70 の表である。

「保育士」資格を取得するためには、卒業するための要件と同時に、この表に基づき、単位を修得すること。

**3. 「幼稚園教諭一種免許状」を取得するための要件**

## (1) 参照ページ

P. 72～74 ——「幼稚園教諭一種免許状」の取得について

## (2) 注意事項

人間科学部児童学科で担当している全 185 科目の中で、幼稚園教諭免許状の取得に関連した科目は 39 科目で、これらを“免許法施行規則に定める科目区分等”ごとに“対応する本学の開設授業科目”として一覧にしたのが、P. 73～74 の表である。

「幼稚園教諭一種免許状」を取得するためには、卒業するための要件と同時に、この表に基づき、単位を修得すること。

**5. その他の資格について**

上述の資格、免許状の他に、「教育学概論」「公衆衛生学」「保育原理」の 3 科目の単位を修得することによって、「社会福祉主事任用資格」（各地方自治体の福祉事務所等で働く者に要求される任用資格）を取得することが可能である。

**6. 授業時間について**

各時限の授業時間は次のとおりである。

時 限	1	2	3	4	5
時 間	9:00～10:40	10:50～12:30	13:20～15:00	15:10～16:50	17:00～18:40

**7. 公欠について**

次の事由により授業を欠席する場合は、公欠として扱う。いずれも、書類を必要とするので、担当事務局に連絡の上、所定の用紙（事務局備え付け）を提出すること。

## (1) 学校感染症

学校保健安全法に定める第 1・2・3 種感染症（インフルエンザ、風疹、百日咳、その他）と診断された場合、原則として 7 日以内の欠席を認める。ただし、添付書類として医師の診断書を必要とする。

なお、第 2 種については、登校許可書、治癒証明書でも可とする。

## (2) 忌引

1 親等以内の親族および配偶者と 2 親等の血族・姻族を忌引扱いとする。いずれも死亡日より起算し、日曜、祝日も含むものとする。また、往復に要する日数も忌引日数に加算する。

- ・ 父母，配偶者およびその父母 7日
  - ・ 祖父母，兄弟姉妹 3日
- ただし，生計を一にする配偶者の父母の場合は，7日とする。

## (3) その他

上記に該当しないものについては，担当事務局に相談のこと。

**8. 休講について**

学校行事や担当教員の都合などにより授業を休講とする場合がある。その場合は事前に掲示板等を通して連絡する。

なお，休講の掲示やその他特段に指示がなく，授業開始時間から30分を過ぎても授業が行われない場合は，担当事務局に問い合わせること。

**9. ストライキ等により交通機関が運行停止した場合及び台風による気象警報発表時の授業措置について****1. 交通機関がストライキ等により運行停止した場合**

## (1) 東急電鉄（大井町線）がストライキ等により運行を停止した場合

次の段階によって授業措置が異なる。

1	午前6時までにスト等による運行停止が解除された場合	→	平常どおりの授業を行う
2	午前9時までにスト等による運行停止が解除された場合	→	午前は休講とし，午後は平常どおりの授業を行う
3	午前9時までにスト等による運行停止が解除されない場合	→	全日休講とする

## (2) 東急電鉄（大井町線）がストライキ等により運行を停止しない場合

JR東日本の電車その他が，ストライキ等により運行を停止しても，授業は平常どおり行う。

**2. 台風による暴風警報が発表された場合**

東京地方（23区西部，23区東部）及び神奈川県東部に暴風警報が発表されている場合，次の段階によって授業措置が異なる。

1	午前6時までに暴風警報が解除された場合	→	平常どおりの授業を行う
2	午前6時から午前9時までの間に暴風警報が解除された場合	→	午前は休講とし，午後は平常どおりの授業を行う
3	午前9時以降に暴風警報が解除された場合	→	全日休講とする

なお，暴風警報が発表されていない場合でも，気象状況は時間の経過とともに変化することが想定される。状況に応じて休講の措置をとることもあるので，大学発表の情報を必ず確認すること。

また，授業開始以後に暴風警報が発表された場合は，学内放送等で授業措置の情報を発信する。

**3. その他**

その他，緊急事態の状況によっては，前述にかかわらず別途の措置を講ずる場合がある。

そのような場合，直ちに大学ホームページ及びポータルサイトへ掲載するので，各自で確認すること。

## 10. 科目試験について

### 1. 試験の内容

定期試験は、全学一斉に期間を指定して行う試験で、前期末の「前期末試験」と、学年末の「学年末試験」がある。

また、クォーター開講科目の場合は、クォーター終了時点で「前期前半末試験」「後期前半末試験」という定期試験を設定している。

なお、担当教員により、これらの指定期間とは別に、授業期間中にこれらの試験に準ずる試験を行う場合がある他、中間試験その他を行うことがある。また、レポート、論文等をもって試験に替える場合もある。

受験に際しては次の事項に留意すること。

- (1) 試験科目、試験の日時および場所は予め掲示する（その際に受験についての注意事項を併せて掲示する）。
- (2) 次の何れかに該当する者は試験を受けることはできない。たとえ受験しても無効とする。
  - a. 科目の履修申告をしていない者
  - b. 学生証を所持しない者
  - c. 試験開始後20分以上遅刻した者
- (3) 受験の際は学生証を必ず机の上に置かなければならない。
- (4) 試験当日学生証の携帯をしていない者は、事務局の証明書自動発行機より「受験（受講）のための証明書」を発行し、机の上に置かなければならない。
- (5) 試験開始後30分以内の退場は許可しない。
- (6) 病気・負傷、大学に向かう途中の事故又はやむを得ない正当な事由により受験できなかった場合は、欠席届に診断書又は証明するものを添えて担当事務局に提出しなければならない。

### 2. 定期試験の実施について

人間科学部児童学科の定期試験は、原則として平常の授業時間内で実施する。一部の科目においては、定期試験期間を設定し、次の通り各時限60分を原則とした試験時間を設定している。

※参考：他学部の定期試験

時 限	1	2	3	4	5	6	7
時 間	9:00～10:00	10:20～11:20	11:40～12:40	13:40～14:40	15:00～16:00	16:20～17:20	17:40～18:40

### 3. 試験の際に不正を行った者の取り扱い

本学部学生が、試験（単位互換により、本学部以外での受験を含む）において不正行為を行った場合、「学則」および「学生の懲戒に関する規程」に従って処分の手続きを行い、「当該学期に実施する全ての科目試験の評価を不可（0点）にする」とともに、「10日以上停学または退学」とする。

- (1) 試験には、大学が当該年度の学年暦で定めた定期試験期間中に行う試験の他、担当教員が授業期間中に各学期末試験または学年末試験として行う試験や、クォーター開講科目で学期途中に実施する試験も対象とし、これらのすべてを「当該学期に実施する全ての科目試験」として取り扱う。
- (2) 停学の期間は在学年数に算入する。
- (3) 処分の内容は決定後公示する。
- (4) 停学の執行開始は、処分を決定した日の翌日からとする。

注1：下記のような場合は不正行為と断定する。

- (a) 代人に受験させた場合
- (b) 他人のために答案、メモ等を書いたり、他人に答案、メモ等を書いてもらったりしている場合
- (c) 問題配布後で試験開始の合図がある前、および試験終了後に鉛筆などの筆記用具を手を持っている場合
- (d) 持ち込みを許可されていない教科書、参考書、ノート、メモ等を見た認められる場合
- (e) 他人の答案を見た認められる場合
- (f) 他人に自己の答案を見せたと認められる場合
- (g) 言語、動作をもって互いに連絡している場合

- (h) 教科書、参考書、ノート等を参照してよい場合に、これらを互いに貸借している場合
- (i) その他、試験監督者および出題者が不正と判断する行為(例えばメモ、ノートを机上においている場合や所持している場合等)を行った場合
- (j) 携帯電話やスマートフォンなどの携帯端末を机の上に置いたり、身に着けていたりした場合

注2：不正行為は試験場で指摘された場合に限らず、採点の際に発見された場合も同様の扱いを受ける。

注3：処分を受けると当該試験期間に実施される科目試験の全ての科目が不合格となるので、ほぼ確実に1年以上の卒業延期となる。

## 11. 成績について

### 1. 成績の発表

- (1) 科目試験の結果は、8月下旬(クォーター開講を含む前期配当科目)と3月下旬(クォーター開講を含む後期配当科目および通年配当科目)の2回発表する。
- (2) 成績は発表と同時に効力を発生するものとする。
- (3) 卒業の要件を充たして卒業資格を認定された者は、3月に本学内に掲示する。

### 2. 成績の評価

- (1) 評価の対象  
出席時間数が学則に定められた開講時間数の3分の2に満たない者は、履修登録を行っていても成績評価の対象とならないので注意すること。
- (2) 各授業科目の成績評価  
各授業科目についての成績評価を、秀(100点～90点)、優(89点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点以下)の5段階に分け、秀、優、良、可を合格、不可を不合格とする。
- (3) 個人の成績の総合評価  
個人の学業成績の総合評価は、f-GPA(ファンクショナル・グレード・ポイント・アベレージ)方式により算定される。計算式は以下のとおりで、算出された評定値の大きい順に順位がつけられる。

$$\frac{\text{履修した各科目のGP} \times \text{単位数の合計}}{\text{履修単位数}} = \text{評定値}$$

※GP = (科目の得点 - 55) / 10 ただし、科目の得点が60点未満の場合、GPは0とする。

- (a) 評価値算出対象となる科目は「卒業要件対象科目」とする。(特別履修などによる卒業要件非加算科目は対象外)
- (b) 評定値算出には不合格科目も対象とする。
- (c) 不合格科目を再履修した場合は、分母の履修単位数の変更はせずに、分子のGPのみ最新評価結果に替えて算出する。
- (d) 前期終了時に評定値を算出する場合、当該年度に履修中の通年科目については、分母(履修単位数)に含めない。
- (e) 評定値が同じ場合には、分子が大きいものを上位とする。分子も同じ場合には同順とする。

## 12. 学年末の指導

- (1) 単位修得状況による指導

**1年次前期終了時に修得単位が10単位未満の者**に対しては、学修意欲の促進と成績向上を目的として、クラス担任が面談等の個別指導を行う。また、**1年次終了時に修得単位が20単位未満の者**に対しては、クラス担任が面談

等を行い、勉学意志の確認や進路変更を含めた今後の進め方に関する相談および指導を行う。

なお、いずれの場合も上記修得単位数には卒業要件非加算の単位数を含めない。また、途中で休学がある場合はその期間を考慮して対応する。

## (2) f-GPAによる指導

各年次終了時に、f-GPAが0.3未満の者には、退学勧告を行う。

## 13. 卒業研究着手の条件について

4年生に履修する卒業研究に着手するためには、3年以上在学し、100単位以上（うち、「基礎ゼミ」2単位、「児童学入門」2単位、「特別研究」4単位を含む）を修得していることが必要である。この条件に満たない場合は、3年以上在学していても、卒業研究に着手することはできないので、卒業は延期される。

注意：「卒業研究」は学年始めの4月からはじまる。3年終了時までには休学期間があると、それが1年未満であっても、着手は次の学年始めの4月まで延期されることになる。

## 14. 修業年限と卒業延期について

### 1. 修業年限

本学を卒業するためには4年以上在学しなければならない。4年を越え在学し、なお卒業できない場合でも在学年数は8年を超えることはできない。ただし、休学中の期間は在学期間に加えない。

### 2. 卒業延期

4年を越え在学する場合は、4月30日までに定められた所定の学費を納入しなければならない。履修届出については前年度までの方法と同じである。

なお、卒業延期者に対しては、科目試験については学期末毎に、卒業試験（卒業研究）については2カ月毎に審査が行われて卒業に必要な条件が満足されれば、前者については学期末に、後者については2カ月毎の月末に卒業資格が認定される。

## 15. 他学部・他大学の科目の履修について

### 1. 特別履修

科目の5区分に属さない他学部（工学部・知識工学部・環境学部・メディア情報学部・都市生活学部）・他大学（単位互換提携をしている大学に限る）の科目は、ある一定の条件を満たさなければ履修することはできない。ただし、一定の条件を満たす場合は、「特別履修科目」として単位が認定され、「自由選択」の14単位内に含めることができる。

### 2. 他学部の科目の特別履修

他学部で開講される科目の履修については以下のとおりである。

#### (1) 履修の手続き

履修する場合は、「特別履修申告書」（各自ポータルサイトよりダウンロード）に必要事項を記入の上、第1週目の授業に出席し科目担当者の認印を受けてから、事務局に提出すること。履修にあたっては、事務局に備え付けの該当学部「学修要覧」、「教授要目」、「授業時間表」を参考にすること。

#### (2) 履修の制限

- ・履修の可否は、他学部内の他学科で開講される科目の取り扱いに準ずる。
- ・所属学年よりも上の学年の配当科目は履修できない。
- ・履修順序の指定がある科目で、前提となる科目を履修していない場合は、当該科目を履修することはできない。
- ・履修希望者数が多く、履修人数を制限する場合は、開講学部の学生が優先される。

## (3) 試験日程および成績評価

履修科目の試験日程および成績評価は、開講学部の日程および基準による。

**3. 他大学の科目の特別履修****東京理工系4大学単位互換**

東京理工系4大学の交流協定に基づき、工学院大学、芝浦工業大学、東京電機大学で開講される科目のうち、単位互換可能科目を所属学科の許可を得て履修することができる。修得した科目は学則で定める最大の単位数までを卒業要件に算入できる。ただし、本学において開講している科目と同一内容の科目については、履修を許可できない。単位互換が可能な科目と履修手続は事務局で確認すること。他大学での受講については、クラス担任の指導・助言を受けること。

# 履修モデル

## 幼稚園教諭一種免許・保育士資格取得の場合

133 単位

1 年		2 年		3 年		4 年	
前期 19 単位	後期 19 単位	前期 22 単位	後期 20 単位	前期 21 単位	後期 19 単位	前期 6 単位	後期 7 単位
情報処理演習(1)		日本文化の伝承	日本文学	公衆衛生学		教養科目	
情報処理演習(2)		日本国憲法		国際化と異文化理解			
外国語科目							
C/S(1)	C/S(2)						
R&W(1)	R&W(2)						
体育科目							
人間と健康							
健康と運動(1)	健康と運動(2)						
専門科目							
保育原理	教育学概論	教育原理	子ども家庭支援の心理学				
子ども家庭福祉			社会福祉	子ども理解の理論と方法			
	発達心理学(1)	社会的養護(1)	教育心理学		保育者論		
	子どもの食と栄養	子どもの保健と健康	子どもの安全と健康				
		子ども家庭支援論	保育の計画と評価		社会的養護(2)		
	乳児保育(1)	保育内容総論	特別な配慮を必要とする 子どもの理解と支援	乳児保育(2)	保育内容健康指導法		
		保育内容人間関係指導法	保育内容言葉指導法	保育内容環境指導法	子育て支援		
	音楽実技(1)	保育内容の理解と方法 (音楽表現)	保育内容表現指導法				
保育内容の理解と方法 (言語表現)	保育内容の理解と方法 (造形表現)	保育内容の理解と方法 (身体表現)		保育実習(1) (保育所・施設)	保育実習(2) 保育実習指導(2) (保育所) —または— 保育実習(3) 保育実習指導(3) (施設)	保育・教職実践演習(幼稚園)	
		食農文化と子育て(1)		保育実習指導(1) (保育所)			
				保育実習指導(1) (施設)			
-----							
子どもと人間関係	子どもと言葉	子どもの造形表現指導法	カリキュラム論				
子どもと環境	教育社会学						
-----							
幼児教育方法論							
幼稚園教育実習(1)				幼稚園教育実習(2)			
幼稚園教育実習指導(1)				幼稚園教育実習指導(2)			
-----							
海外研修		キャリアデザイン(1)	キャリアデザイン(2)				
子育て支援演習							
-----							
児童学入門							
基礎ゼミ							
		特別研究		卒業研究			
凡例	必修科目	保育士 必修または選択必修	幼稚園教諭 必修または選択必修	その他学年配当のない科目			
				インターンシップ(1)	インターンシップ(2)	ボランティア(1)	ボランティア(2)

※毎学期、開講期を変更する科目、閉講する科目が生じる場合があるため、別冊の時間割を確認すること。

## 保育士資格取得の場合

125 単位

1 年		2 年		3 年		4 年	
前期 19 単位	後期 19 単位	前期 22 単位	後期 19 単位	前期 19 単位	後期 14 単位	前期 6 単位	後期 7 単位
情報処理演習(1)		日本文化の伝承	日本文学	公衆衛生学		教養科目	
情報処理演習(2)		日本国憲法		国際化と異文化理解			
外国語科目							
C/S(1)		C/S(2)					
R&W(1)		R&W(2)					
体育科目							
人間と健康		健康と運動(1)		健康と運動(2)			
専門科目							
保育原理	教育学概論	教育原理	子ども家庭支援の心理学	子ども理解の理論と方法			
子ども家庭福祉		社会福祉	子ども理解の理論と方法	保育者論			
発達心理学(1)	社会的養護(1)	教育心理学		保育者論			
子どもの食と栄養	子どもの保健と健康	子どもの安全と健康					
	子ども家庭支援論	保育の計画と評価		社会的養護(2)			
乳児保育(1)	保育内容総論	特別な配慮を必要とする 子どもの理解と支援	乳児保育(2)	保育内容健康指導法			
	保育内容人間関係指導法	保育内容言葉指導法	保育内容環境指導法	子育て支援			
音楽実技(1)	保育内容の理解と方法 (音楽表現)	保育内容表現指導法					
保育内容の理解と方法 (言語表現)	保育内容の理解と方法 (造形表現)	保育内容の理解と方法 (身体表現)		保育実習(1) (保育所・施設)	保育実習(2) 保育実習指導(2) (保育所) —または— 保育実習(3) 保育実習指導(3) (施設)		
	食農文化と子育て(1)	食農文化と子育て(2)	保育実習指導(1) (保育所)	保育実習指導(1) (施設)	保育・教職実践演習(幼稚園)		
子どもと人間関係	子どもと言葉	子どもの造形表現指導法					
子どもと環境	教育社会学	幼児教育方法論					
海外研修							
		キャリアデザイン(1)	キャリアデザイン(2)				
子育て支援演習							
児童学入門 基礎ゼミ				特別研究		卒業研究	
凡例	必修科目	保育士 必修または選択必修	幼稚園教諭 必修または選択必修	その他学年配当のない科目			
				インターンシップ(1)	インターンシップ(2)	ボランティア(1)	ボランティア(2)

※毎学期、開講期を変更する科目、閉講する科目が生じる場合がある  
るので、別冊の時間割を確認すること。

## 幼稚園教諭一種免許取得の場合

124 単位

1 年		2 年		3 年		4 年	
前期 19 単位	後期 17 単位	前期 21 単位	後期 20 単位	前期 17 単位	後期 18 単位	前期 5 単位	後期 7 単位
日本文化の伝承		日本文学		公衆衛生学		教養科目	
日本国憲法				国際化と異文化理解			
情報処理演習(1)		情報処理演習(2)		情報処理演習(3)			
外国語科目							
C/S(1)		C/S(2)					
R&W(1)		R&W(2)					
体育科目							
人間と健康							
健康と運動(1)		健康と運動(2)					
専門科目							
保育原理	教育学概論	教育原理	子ども家庭支援の心理学				
子ども家庭福祉				子ども理解の理論と方法			
	発達心理学(1)		教育心理学		保育者論		
	子どもの食と栄養	子どもの保健と健康	子どもの安全と健康				
			保育の計画と評価				
		保育内容総論	特別な配慮を必要とする 子どもの理解と支援		保育内容健康指導法		
		保育内容人間関係指導法	保育内容言葉指導法	保育内容環境指導法	子育て支援		
	音楽実技(1)	保育内容の理解と方法 (音楽表現)	保育内容表現指導法				
保育内容の理解と方法 (言語表現)	保育内容の理解と方法 (造形表現)	保育内容の理解と方法 (身体表現)	音楽実技(2)				保育・教職実践演習(幼稚園)
-----							
子どもと人間関係	子どもと言葉	子どもの造形表現指導法	カリキュラム論	臨床心理学			
子どもと環境	教育社会学	子どもの身体表現指導法					
	発達心理学(2)	子どもの音楽表現指導法					
	造形	幼児教育方法論					
		幼稚園教育実習(1)		幼稚園教育実習(2)			
		幼稚園教育実習指導(1)	教育相談	幼稚園教育実習指導(2)			
-----							
		海外研修	キャリアデザイン(1)	キャリアデザイン(2)			
		子育て支援演習					
児童学入門							
基礎ゼミ			特別研究	卒業研究			
凡例	必修科目	保育士 必修または選択必修	幼稚園教諭 必修または選択必修	その他学年配当のない科目			
				インターンシップ(1)	インターンシップ(2)	ボランティア(1)	ボランティア(2)

※毎学期、開講期を変更する科目、閉講する科目が生じる場合がある  
るので、別冊の時間割を確認すること。

## 資格・免許取得せずの場合

124 単位

1 年		2 年		3 年		4 年	
前期 21 単位	後期 16 単位	前期 23 単位	後期 19 単位	前期 15 単位	後期 18 単位	前期 7 単位	後期 5 単位
国際関係論 (1)	国際関係論 (2)	日本文学		生活とメディア	公衆衛生学	教養科目	
心理学概論	日本国憲法				国際化と異文化理解		
情報処理演習 (1)	情報処理演習 (2)	情報処理演習 (3)		経済学 (1)	経済学 (2)	社会学 (1)	社会学 (2)
外国語科目							
C/S (1)	C/S (2)						
R&W (1)	R&W (2)						
体育科目							
人間と健康							
健康と運動 (1)	健康と運動 (2)						
専門科目							
保育原理	教育学概論	教育原理	子ども家庭支援の心理学				
子ども家庭福祉			社会福祉	子ども理解の理論と方法			
	発達心理学 (1)	社会的養護 (1)	教育心理学		保育者論		
	子どもの食と栄養	子どもの保健と健康	子どもの安全と健康				
		子ども家庭支援論	保育の計画と評価				
	乳児保育 (1)	保育内容総論	特別な配慮を必要とする 子どもの理解と支援				
		保育内容人間関係指導法	保育内容言葉指導法	保育内容環境指導法	子育て支援		
			保育内容表現指導法				
保育内容の理解と方法 (言語表現)							
		食農文化と子育て (1)	食農文化と子育て (2)				
-----							
子どもと人間関係	子どもと言葉	子どもの造形表現指導法	子どもと昔話	臨床心理学			
	教育社会学						
	発達心理学 (2)						
		幼児教育方法論					
-----							
		海外研修	キャリアデザイン (1)	キャリアデザイン (2)			
児童学入門							
基礎ゼミ	特別研究		卒業研究				
凡例	必修科目	保育士 必修または選択必修	幼稚園教諭 必修または選択必修	その他学年配当のない科目			
				インターンシップ (1)	インターンシップ (2)	ボランティア (1)	ボランティア (2)

※毎学期、開講期を変更する科目、閉講する科目が生じる場合がある  
るので、別冊の時間割を確認すること。

# 履修系統図

## 人間科学部 児童学科 履修系統図

DP 1. 豊かな人間性に根差した学際的教養と、「知」の基盤となる横断的基礎知識、児童の教育・保育および子育て支援の分野に関する専門的知識や技術を修得している。  
 2. 「体験プログラム」を通して、豊かな自己表現力とコミュニケーション力を身につけ、「理論」と「実践」を総合的に応用することができる。  
 3. 児童学分野における真理探究のための主体的な学びから、柔軟な思考力、課題探究能力および問題解決力を修得している。  
 4. グローバルな視点から物事を考え、現代的課題に対応しうる倫理観および社会的責任を修得している。

DP	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
DP1	心理学概論 情報処理演習(1) 人間と健康 健康と運動(1) 保育原理 子ども家庭福祉 児童文化 手話 児童学入門	日本文化の伝承 情報処理演習(2) 健康と運動(2) 発達心理学(1) 子どもの食と栄養 乳児保育(1) 教育学概論 日本国憲法 音楽実技(1) 保育内容の理解と方法(造形表現) Communication Skills(2) Reading and Writing(2)	生活とメディア 教育原理 社会的養護(1) 子育て支援演習 保育内容の理解と方法(音楽表現) 造形 保育内容の理解と方法(身体表現) 食農文化と子育て(1) 教育社会学 子どもの保健康と健康 子ども家庭支援論 保育内容総論 保育内容人間関係指導法 発達心理学(2) 子どもと言葉	社会福祉 音楽実技(2) 幼稚園教育実習(1) 幼稚園教育実習指導(1) 食農文化と子育て(2) 教育心理学 子ども家庭支援の心理学 子どもの安全と健康 保育内容言葉指導法 保育内容表現指導法 特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援 海外研修	保育実習指導(保育所) 保育実習指導(1)(施設) 保育実習(1)(保育所・施設) 保育内容環境指導法 乳児保育(2) 子どもの造形表現指導法 子どもの身体表現指導法 子どもの音楽表現指導法 幼児教育方法論 子ども理解の理論と方法 教育相談 特別研究 キャリアデザイン(1)	国際化と異文化理解 公衆衛生学 子どもと普話 幼稚園教育実習指導(2) 幼稚園教育実習(2) 社会的養護(2) 保育者論 カリキュラム論 保育内容健康指導法 子育て支援 キャリアデザイン(2)	保育実習(2)(保育所) 保育実習指導(2)(保育所) 保育実習(3)(施設) 保育実習指導(3)(施設) 臨床心理学	保育・教職実践演習(幼稚園) 卒業研究 インターンシップ(1) インターンシップ(2) ポランティア(1) ポランティア(2)
DP2	音楽実技入門 保育内容の理解と方法(言語表現)	保育内容の理解と方法(造形表現) Communication Skills(2) Reading and Writing(2)	子ども家庭支援論 保育内容総論	保育内容言葉指導法 保育内容表現指導法 特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援	幼児教育方法論 子ども理解の理論と方法 教育相談 特別研究 キャリアデザイン(1)	保育内容健康指導法 子育て支援 キャリアデザイン(2)		
DP3	子どもと人間関係 子どもと環境 基礎ゼミ	Reading and Writing(2)	保育内容総論	海外研修				
DP4	Communication Skills(1) Reading and Writing(1)	Communication Skills(1) Reading and Writing(1)	保育内容人間関係指導法 発達心理学(2) 子どもと言葉					

## 「保育士」「幼稚園教諭一種免許状」に関する「実習」について

本学人間科学部児童学科は、「保育士」資格と「幼稚園教諭一種免許状」を取得することができる。詳細は次頁以降を参照すること。

ここでは、「保育士」「幼稚園教諭一種免許状」に関して、それぞれで行う「実習」について一覧にまとめた。実習そのものと、その準備のための授業科目があるので注意すること。

	保 育 士				幼稚園教諭一種免許状	
	○必修として 「保育所」「施設」の 両方の実習を行う		△選択必修として 「保育所」または「施設」の どちらかの実習を行う。		○必修として 「(1)[通称：観察実習]」と 「(2)[通称：責任実習]」の 両方の実習を行う	
実 習 授業科目	保育実習(1)(保育所・施設)		保育実習(2)(保育所)	保育実習(3)(施設)	幼稚園教育実習(1)	幼稚園教育実習(2)
実習準備 授業科目	保育実習指導(1)(保育所) 保育実習指導(1)(施設)		保育実習指導(2)(保育所)	保育実習指導(3)(施設)	幼稚園教育実習指導(1)	幼稚園教育実習指導(2)
実習先	保育所	施設	保育所	施設	幼稚園 (観察実習)	幼稚園 (責任実習)
1年						
2年	9月実習費納入				4月実習費納入	
					後期授業科目 2月頃：実習	
3年	前期授業科目 6月頃：実習					
	8月頃：実習					後期授業科目 2月頃：実習
4年			前期授業科目 6月頃：実習	前期授業科目		
				8月頃：実習		

# 「保育士」資格の取得について

本学人間科学部児童学科は、「指定保育士養成施設」として認定されている。これにより「保育士」資格を取得するには、卒業要件を充足し、かつ児童福祉法および同施行規則の定めるところによる別表の専門科目の中から、所定の単位を修得しなければならない。学則第20条の3第2項で定める履修方法等については以下の通りである。

## 1. 資格の種類

保育士

## 2. 履修手続きについて

オリエンテーション等で履修に関する指導・説明を受けた上、履修登録時に、資格取得に必要な科目を登録すること。

なお、保育実習には、別途「保育実習費」として¥70,000を、2年次後期に徴収する。詳細は、保育実習希望者を対象に行うガイダンスで確認すること。

※一旦納入した保育実習費は、理由の如何にかかわらず返還しない。

## 3. 履修制限について

保育士を養成する社会的責任から、次の条件を設けて履修者を制限することがある。

- (1) 学則等学内の規程により処分等を受けた場合
- (2) 授業等への出席状況が著しく悪い者
- (3) その他、保育士を志す者としてふさわしくない者

## 4. 「保育実習」について

保育士資格取得のためには、次の実習に参加して、単位を修得しなければならない。

### ① 実習の種別と期間

授業科目と種別		期 間			実 習 指 導 科 目
保育実習(1)(保育所・施設)	保育所	第3学年	6月頃	12日間	保育実習指導(1)(保育所) 保育実習指導(1)(施設)
	施設	第3学年	8月頃	12日間	
保育実習(2)(保育所)	保育所	第4学年	6月頃	12日間	保育実習指導(2)(保育所)
または 保育実習(3)(施設)	施設	第4学年	8月頃	12日間	保育実習指導(3)(施設)

※実習期間の「12日間」については、実習先に実習時間(90時間)を満たすこととして依頼しており、各施設において調整される。

### ②実習の基準

実習に参加するためには、以下の専門科目の単位を修得するか、履修中であることが必要である。

教科目区分	修得科目または単位数
保育の本質・目的に関する科目	4科目 8単位以上
保育の対象の理解に関する科目	3科目 6単位以上
保育の内容・方法に関する科目	8科目 13単位以上

別表 児童福祉法施行規則に基づく履修科目

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					備考	
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数				授業時間数
						必修	選択	計		
011	外国語, 体育 以外の科目	不問	6以上	日本文学	講義		2	2	30	
029				日本国憲法	講義		2	2	30	
040				心理学概論	講義		2	2	30	
043				国際化と異文化理解	講義		2	2	30	
047				生活とメディア	講義		2	2	30	必修科目を含め
048				公衆衛生学	講義		2	2	30	6単位以上修得
051				情報処理演習(1)	演習	1		1	30	すること
052				情報処理演習(2)	演習	1		1	30	
053				情報処理演習(3)	演習		1	1	30	
054				情報処理演習(4)	演習		1	1	30	
062	外国語	演習	2以上	Communication Skills(1)	演習	1		1	30	
063				Communication Skills(2)	演習	1		1	30	
064				Reading and Writing(1)	演習	1		1	30	
065				Reading and Writing(2)	演習	1		1	30	
109	体育	講義	1	人間と健康	講義	2		2	30	
110		実技	1	健康と運動(1)	実技	1		1	30	
111		実技	1	健康と運動(2)	実技	1		1	30	
合計		10単位以上					10	14	24	
				24 単位 (≥10 単位)						

「保育士」資格の取得について

告示別表第1による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等						備 考
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数			授業時間数	
						必修	選択	計		
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2		2	30	112
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2		2	30	113
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉	講義	2		2	30	115
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2		2	30	116
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2		2	30	126
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護(1)	講義	2		2	30	117
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2		2	30	118
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	発達心理学(1)	講義	2		2	30	119
				教育心理学	講義	2		2	30	120
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2		2	30	121
	子どもの理解と援助	演習	1	子ども理解の理論と方法	演習	2		2	30	122
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健と健康	講義	2		2	30	123
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2		2	30	125
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	保育の計画と評価	講義	2		2	30	127
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	2		2	30	129
	保育内容演習	演習	5	保育内容健康指導法	演習	2		2	30	130
				保育内容人間関係指導法	演習	2		2	30	131
				保育内容環境指導法	演習	2		2	30	132
				保育内容言葉指導法	演習	2		2	30	133
				保育内容表現指導法	演習	2		2	30	134
	保育内容の理解と方法	演習	4	保育内容の理解と方法(音楽表現)	演習	1		1	30	140
				保育内容の理解と方法(造形表現)	演習	1		1	30	141
				保育内容の理解と方法(身体表現)	演習	1		1	30	142
				保育内容の理解と方法(言語表現)	演習	1		1	30	143
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育(1)	講義	2		2	30	135
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育(2)	演習	2		2	30	136
	子どもの健康と安全	演習	1	子どもの安全と健康	演習	1		1	30	124
	障害児保育	演習	2	特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援	演習	2		2	30	137
社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護(2)	演習	1		1	15	138	
子育て支援	演習	1	子育て支援	演習	2		2	30	139	
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習(1)(保育所・施設)	実習	4		4	180	144
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導(1)(保育所)	演習	1		1	20	145
				保育実習指導(1)(施設)	演習	1		1	20	146
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2		2	30	151
合 計		5 1 単位		62 単位 (≥51 単位)						

告示別表第2による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等						備考			
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数			授業時間数				
						必修	選択	計					
163	保育の本質・目的に関する科目			教育学概論	講義		2	2	30				
182				児童学入門	講義	2		2	30				
152	保育の対象の理解に関する科目		15	発達心理学(2)	演習		2	2	30	必修科目を含め 22単位以上修得 すること			
153				臨床心理学	演習		2	2	30				
179				子育て支援演習	演習	2		2	30				
180				食農文化と子育て(1)	演習	2		2	30				
181				食農文化と子育て(2)	演習		2	2	30				
183				基礎ゼミ	演習	2		2	30				
184				特別研究	演習	4		4	60				
185				卒業研究	演習	6		6	180				
158				保育の内容・方法に関する科目		15	児童文化	演習			2	2	30
159							子どもと昔話	講義			2	2	30
162	子どもと言葉	演習					2	2	30				
161	子どもと人間関係	演習					2	2	30				
177	子どもと環境	演習					2	2	30				
155	音楽実技(1)	演習	2					2	30				
156	音楽実技(2)	演習		2	2	30							
157	造形	演習		2	2	30							
160	手話	演習		2	2	30							
147	保育実習	保育実習Ⅱ	実習	2	保育実習(2)(保育所)	実習	2	2	90	保育実習(2)(保育所)と 保育実習指導(2)(保育所) または、保育実習(3)(施設)と 保育実習指導(3)(施設)のどちらか 3単位を選択して履修			
148		保育実習指導Ⅱ	演習	1	保育実習指導(2)(保育所)	演習	1	1	15				
149		保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習(3)(施設)	実習	2	2	90				
150		保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導(3)(施設)	演習	1	1	15				
合計		18単位以上		50単位 (≥18単位)									

<p>保育士資格取得科目ではないが、 学校独自の科目として開設されて いる教科目</p>	<p>H31の教育課程表に掲載されている全科目のうち、告示(別表第1・別表第2)による教科目(P. 67~69)に掲載されていない全ての科目が該当する。</p>
--	--

# 「幼稚園教諭一種免許状」の取得について

本学人間科学部児童学科では、幼稚園教諭免許状の取得に関連した幼児教育に関する科目を開講している。この免許状を希望する場合は、所定の科目を修めることにより幼稚園教諭一種免許状を取得することが可能である。

## 1. 免許状の種類

幼稚園教諭一種免許状

## 2. 履修手続きについて

オリエンテーション等で履修に関する指導・説明を受けた上、履修登録時に、免許取得に必要な科目を登録すること。

なお、教育実習には、別途「教育実習費」として¥50,000を、2年次前期に徴収する。詳細は、教育実習希望者を対象に行うガイダンスで確認すること。

※一旦納入した教育実習費は、理由の如何にかかわらず返還しない。

## 3. 履修制限について

幼稚園教諭を養成する社会的責任から、次の条件を設けて履修者を制限することがある。

- (1) 学則等学内の規程により処分等を受けた場合
- (2) 授業等への出席状況が著しく悪い者
- (3) その他、幼稚園教諭を志す者としてふさわしくない者

※保育実習の基準についても、あらかじめ確認しておくこと。

## 4. 幼稚園教諭一種免許状を取得するためには、次の要件を充足しなければならない。

### (1) 基礎資格

学士の学位を有すること

### (2) 大学において修得することを必要とする最低単位数

①免許法施行規則に定める科目区分において、最低修得単位数として、以下を充たすこと

教育の基礎的理解に関する科目等及び保育内容の指導法	・教育の基礎的理解に関する科目 ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 ・教育実践に関する科目 ・領域及び保育内容の指導法に関する科目	35単位
領域に関する専門的事項	健康、人間関係、環境、言葉、表現	12単位

②「教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目」として、日本国憲法2単位、体育2単位、外国語コミュニケーション2単位、情報機器の操作2単位を修得すること

教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目	日本国憲法	2単位
	体育	2単位
	外国語コミュニケーション	2単位
	情報機器の操作	2単位

上表の単位要件を充たすために、本学人間科学部児童学科では、それぞれの科目区分に対応する授業科目を、次頁の通り開設している。

この表により単位を修得することで、幼稚園教諭一種免許状の単位要件を充たすことができる。

教育の基礎的理解に関する科目等及び保育内容の指導法

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学の開設授業科目			備考	
科目	各科目に含める必要事項	単 位 数 最 低 修 得	授業科目	単位数			
				必修	選択		
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2		113	
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		保育者論	2		118	
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育社会学	2		114	
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		発達心理学(1) 教育心理学	2 2		119 120	
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別な配慮を必要とする 子どもの理解と支援	2		137	
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		カリキュラム論	2		128	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	4	幼児教育方法論	2		167	
	・幼児理解の理論及び方法		子ども理解の理論と方法	2		122	
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2		168	
教育実践に関する科目	教育実習	5	幼稚園教育実習(1)	2		169	
			幼稚園教育実習指導(1)	1		170	
			幼稚園教育実習(2)	2		171	
			幼稚園教育実習指導(2)	1		172	
	教職実践演習	2	保育・教職実践演習(幼稚園)	2		151	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	14	保育内容健康指導法	2		130	
			保育内容人間関係指導法	2		131	
			保育内容言葉指導法	2		133	
			保育内容環境指導法	2		132	
			保育内容表現指導法	2		134	
			子どもの音楽表現指導法		2	これら3科目より 1科目選択必修	166
			子どもの造形表現指導法		2		164
			子どもの身体表現指導法		2		165
保育内容総論	2		129				

履修上の参考MEMO

「免許法施行規則に定める科目区分等」  
として必要な単位数合計

35

本学で開設している科目

必修 30  
選択 6

領域に関する専門的事項

免許法施行規則に定める科目区分	単 位 数 最 低 修 得	左記に対応する本学の開設授業科目			備 考
		授業科目	単位数		
			必修	選択	
健 康	1 2	子どもの保健と健康	2		123
人間関係		子どもと人間関係	2		161
環 境		子どもと環境	2		177
言 葉		子どもと言葉	2		162
表 現		保育内容の理解と方法（音楽表現）	1		140
		保育内容の理解と方法（造形表現）	1		141
		保育内容の理解と方法（身体表現）	1		142
		保育内容の理解と方法（言語表現）	1		143
		1 2	12	0	

教育職員免許法施行規則第 66 条 6 に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	単 位 数 最 低 修 得	左記に対応する本学の開設授業科目			備 考
		授業科目	単位数		
			必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法	2		029
体 育	2	健康と運動(1)	1		110
		健康と運動(2)	1		111
外国語コミュニケーション	2	Communication Skills(1)	1		062
		Communication Skills(2)	1		063
情報機器の操作	2	情報処理演習(1)	1		051
		情報処理演習(2)	1		052
		8	8		

# 東京都市大学留学プログラム (TAP・TUCP)

本学の留学プログラムは、「東京都市大学オーストラリアプログラム (以下,TAP)」と「東京都市大学とカンタベリー大学との留学プログラム (以下,TUCP)」の2つのプログラムがあります。これらのプログラムは、本学が独自に開発した留学プログラムです。

2015年より始まったTAPは、西豪州パースの大学に16週にわたり留学します。参加条件を問いませんので、英語に自信が無い場合でも安心して留学することが可能です。1年次には、準備教育として、前期後期合わせて100日間の英会話レッスンもあります。

TUCPは、ニュージーランド・クライストチャーチ市のカンタベリー大学に16週にわたり留学します。参加条件としてTOEIC®600点以上が求められます。カンタベリー大学の学生と共に現地の科目を受講できることがこのプログラムの特徴です。



## プログラムの概要

現在は以下の2プログラムが用意されています。英語レベルに合わせて参加するプログラムを決定します。

	 <b>東京都市大学 オーストラリアプログラム</b>	 <b>TUCP カンタベリー大学 留学プログラム</b>																																				
概要	<b>TAP</b> <b>東京都市大学オーストラリアプログラム</b> 初体験でも安心してチャレンジできる留学システム。 国内での準備教育とオーストラリア留学の2年間にわたる大規模プログラム。	<b>TUCP</b> <b>東京都市大学&amp;カンタベリー大学留学プログラム</b> 現地学生と共に専門科目を学ぶ上級者向けプログラム																																				
募集定員	<table border="1"> <tr> <td>サイクル A</td> <td>環境学部</td> <td>環境創生学科</td> <td>45名</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>環境経営システム学科</td> <td>35名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>メディア情報学部</td> <td>社会メディア学科</td> <td>35名</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>情報システム学科</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>都市生活学部</td> <td>都市生活学科</td> <td>90名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>人間科学部</td> <td>児童学科</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>サイクル B</td> <td>工学部</td> <td>全8学科</td> <td>180名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>知識工学部</td> <td>全3学科</td> <td>70名</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td>471名</td> </tr> </table> サイクル A : 221名 サイクル B : 250名 学部学科によりサイクル (留学の時期) を指定。 募集人員を超えた場合は選考あり。	サイクル A	環境学部	環境創生学科	45名			環境経営システム学科	35名		メディア情報学部	社会メディア学科	35名			情報システム学科	12名		都市生活学部	都市生活学科	90名		人間科学部	児童学科	4名	サイクル B	工学部	全8学科	180名		知識工学部	全3学科	70名	合計			471名	45名  学部2年生以上及び大学院生にも開かれたプログラムです
サイクル A	環境学部	環境創生学科	45名																																			
		環境経営システム学科	35名																																			
	メディア情報学部	社会メディア学科	35名																																			
		情報システム学科	12名																																			
	都市生活学部	都市生活学科	90名																																			
	人間科学部	児童学科	4名																																			
サイクル B	工学部	全8学科	180名																																			
	知識工学部	全3学科	70名																																			
合計			471名																																			
英語要件	特になし	TOEIC®600点以上																																				
語学準備講座	参加必須(1年次 前後期 100日間)	参加可能																																				
プログラム 期間	<table border="1"> <tr> <td>サイクル A</td> <td>語学準備講座</td> <td>2019年5~7月,9~12月</td> </tr> <tr> <td></td> <td>豪州留学</td> <td>2020年2~5月</td> </tr> <tr> <td>サイクル B</td> <td>語学準備講座</td> <td>2019年5~7月,9~12月</td> </tr> <tr> <td></td> <td>豪州留学</td> <td>2020年8~11月</td> </tr> </table>	サイクル A	語学準備講座	2019年5~7月,9~12月		豪州留学	2020年2~5月	サイクル B	語学準備講座	2019年5~7月,9~12月		豪州留学	2020年8~11月	ニュージーランド留学 : 2020年2~5月  ニュージーランド留学 : 2020年8~11月																								
サイクル A	語学準備講座	2019年5~7月,9~12月																																				
	豪州留学	2020年2~5月																																				
サイクル B	語学準備講座	2019年5~7月,9~12月																																				
	豪州留学	2020年8~11月																																				
派遣先大学	エディスコローワン大学/マードック大学 [西オーストラリア州 パース]	カンタベリー大学 [ニュージーランド クライストチャーチ]																																				
学修内容と修得単位	英語科目/教養科目等 計12単位 詳細は別表参照	英語科目/専門基礎科目等 計12単位 詳細は別表参照																																				

留学中の学修

【TAP】4か月間の留学において、1st クォーターは、大学付設の語学学校（能力別クラス）で他国の留学生とともに英語を学びます。2nd クォーターは国際人として必要な教養を身につけるために、教養の科目を英語で学びます。現地における科目と、本学における認定科目については以下のとおりですが、詳細は学科の教務委員（または TAP 担当教員）に確認してください。

[2019年度入学者用]TAPにおける海外大学で修得した単位の認定について

派遣先大学名	海外大学の開講科目名 ※1	単位数	都市大での認定科目名	単位数	工学部	知識工学部	環境学部	メディア情報学部	都市生活学部	人間科学部
					認定科目区分	認定科目区分	認定科目区分	認定科目区分	認定科目区分	認定科目区分
ECU	前半	4	Communication Skills(1)	1	Improving English 4単位を外国語必修単位 C S (1), C S (2) <1年次配当>, RW (1), RW (2) <2年次配当> の4単位で認定 (上記科目の履修は免除)					
			Communication Skills(2)	1						
			Reading and Writing(1)	1						
			Reading and Writing(2)	1						
	Australia Today	2	※2	2	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目
	後半	Collaborative Design	2	※2	2	工学基礎科目・選択	知識工学基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	教養科目
Social, Cultural, and Media Studies	2	※2	2	教養科目	教養科目	教養科目	専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択必修	教養科目	
Urban Movement and Analysis	2	※2	2	—	—	専門基礎科目・選択	教養科目	専門科目・選択	教養科目	
Introductory Applied Mathematics	2	※2	2	工学基礎科目・選択	知識工学基礎科目・選択	—	—	—	—	
MU	前半	4	Communication Skills(1)	1	Improving English 4単位を外国語必修単位 C S (1), C S (2) <1年次配当>, RW (1), RW (2) <2年次配当> の4単位で認定 (上記科目の履修は免除)					
			Communication Skills(2)	1						
			Reading and Writing(1)	1						
			Reading and Writing(2)	1						
	Australia Today	2	※2	2	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目
	後半	Australia and Asia	2	※2	2	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目
Digital Storytelling	2	※2	2	—	—	専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	専門科目・選択	教養科目	
Using Web Data	2	※2	2	工学基礎科目・選択	知識工学基礎科目・選択	—	—	—	—	
Sustainable Urban Design	2	※2	2	工学基礎科目・選択	知識工学基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択必修	教養科目	

※1 海外大学での開講科目(名)は変更となる場合がある。

※2 海外大学で単位を修得した科目の名称のまま、学則第43条に則り、都市大で単位を認定する。

【TUCP】最初の4週間は大学付設の語学学校で集中的に英語を学び、その後カンタベリー大学の正規学生とともに、専門基礎科目等の科目を学びます。現地における開講予定科目と、本学における認定科目については以下のとおりですが、詳細は学科の教務委員に確認してください。

[2019年度以降実施]TUCP科目の各学部での単位認定表

プログラム名	派遣先大学名	海外大学の開講科目名 ※1	単位数	都市大での認定科目名 ※2	単位数	工学部	知識工学部	環境学部	メディア情報学部	都市生活学部	人間科学部	
						認定科目区分	認定科目区分	認定科目区分	認定科目区分	認定科目区分	認定科目区分	
TUCP	UC	Improving English Intensive	4	Improving English Intensive(1)	1	2018年度以前入学生 Improving English Intensive 4単位を外国語必修単位CS(1),CS(2)<1年次配当>, RW(2),TP2年次配当> の4単位で認定。 2019年度以降入学生 Improving English Intensive 4単位を外国語必修単位CS(1),CS(2)<1年次配当>, RW(1),RW(2)<2年次配当> の4単位で認定。 ※英語の必修科目を修得済みの場合は、外国語科目・選択で認定。						
				Improving English Intensive(2)	1							
				Improving English Intensive(3)	1							
				Improving English Intensive(4)	1							
		参加者は下記の科目群から2科目を履修する										
		②Strengthening communities through Social Innovation	2	※3	2				専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択必修	
		③Enterprise in Action	2	※3	2				専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	専門科目・選択	
		④Introduction to Environmental Science	2	※3	2	工学基礎科目・選択	知識工学基礎科目・選択		専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	専門科目・選択	教養科目
⑤Education, Culture and Society	2	※3	2				教養科目	専門基礎科目・選択	教養科目			
Intensive Course(eng)	4	※3	4				専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	専門科目・選択			

※1 海外大学での開講科目(名)は変更となる場合がある。

※2 入学年度により都市大での認定科目は異なる。

※3 海外大学で単位を修得した科目の名称のまま、学則第43条に則り、都市大で単位を認定する。

※人間科学部児童学科は、TAP・TUCP に参加した場合、4年間では保育士資格および幼稚園教諭一種免許状を取得できない場合もあります。

上記の記載内容（開講科目名など）は変更される場合がありますのでご了承ください。

留学プログラムに関するご質問等は以下の窓口まで。

国際センター（事務局国際部） 世田谷キャンパス 1号館 1階 メールアドレス kokusaibu@teu.ac.jp

# 科目概要

## 教養科目

### 哲学(1)

001

Philosophy(1)

「政治学」や「心理学」といった学問は、学問名自体が研究対象を大まかに指し示していますが、「哲学」はそうではありません（「哲学」の「哲」はけっして研究対象を示しているわけではない）。では、いったい哲学の「哲」は何を意味するのでしょうか。また哲学はそもそも何を研究する学問なのでしょうか。前期の哲学の講義では、この根本的な問いに対する答えを、西洋哲学の源流である古代ギリシャ思想に遡りつつ探り出してゆきます。

### 哲学(2)

002

Philosophy(2)

このシラバスを書いている「私」は「大野」ですが、だからといって「私」を「大野」と規定することはできません。そんなことをすれば、「私」と自らを名指す人は何十億といるため）世界は「大野」で溢れかえってしまうからです。では「私」とはどうとらえるべきなのでしょうか。

後期の講義では、この問いに対する解答を、主にデカルトの思索を手掛かりにしながら探し求めてゆきます。

### 倫理学(1)

003

Ethics(1)

倫理学は、哲学の一分野であり、人と人との間に生成する価値、規範、善悪などを考える学問である。

私と他者、そして両者を架橋する言葉の問題を中心に講義する。

### 倫理学(2)

004

Ethics(2)

バイオメディカル・エシックス(生命医学倫理)を講義する。

生命が問われる現場では価値観・倫理観が激しく対立する。

生命の問題を医学・医療関係者に任せきりにせず、自らの問いとして考えてみよう。

### 倫理学

005

Ethics

古来、哲学者たちは「善／悪とは何か?」、「いかに行為すべきか?」という倫理的・道徳的問題を扱ってきた。こうした問題は、私たちが生きていく上で多かれ少なかれ問わざるを得ない問題である。しかし近年は、科学技術の発達により、さらに高度に枝分かれし専門化した文

脈においてこうした問題が問われるようになってきた。こうした時代の要請に応える学問分野として登場してきたのが応用倫理学である。この授業では、その下位領域としての環境倫理学と情報倫理学を扱う。

### 文化人類学

006

Cultural Anthropology

文化人類学は文化を「ものさし」としながら、人類が持つ共通点と差異を見出そうとしてきました。本授業では人類学者の視点の取り方を、誤解や思い込みをも含んだ形で映像、文章などを通して追体験していくことで、人類学という学問の歩みとともに踏み固めるとともに、現代人類学の模索にまで踏み込んでみたいと思います。

### 視覚芸術史(1)

007

History of Visual Arts(1)

絵画と彫刻が美術の全てではない。建築やデザインも美術の範疇に含まれる。厳密に美術の範囲を規定することにそれほど意味はない。しかし「芸術とは何か」という問いには、真摯に向き合わなければならない。本講義はこうした姿勢を培うことを目的とする。

### 視覚芸術史(2)

008

History of Visual Arts(2)

17世紀の西洋社会における科学革命によって「近代主義」がはじまり、それによって18世紀の産業革命が起こり、芸術の分野がそれを自覚するのは19世紀の半ばといわれている。新しい絵画は印象主義より始まる。本講義では、印象主義以降の絵画、建築、デザインを扱う。

### デザイン概論(1)

009

Introduction to Design:Theory and History(1)

「デザインとは何か」という問いの一つの解答を導くよう本講義を行ないたい。そのため機能と形態の関わりを中心として、デザインという言葉あまり広くとりすぎないよう「もの」に即して考察していく。本講義を履修するにあたり視覚芸術史(1)(2)を履修済みのこと。

### デザイン概論(2)

010

Introduction to Design:Theory and History(2)

本講義は「デザイン概論(1)」と関連し、もののデザインについて講義していく。特に、ここでは「日本再発見」というテーマで、日本のデザインに着目し、伝統的なものから現代のものまでを見ていきたい。デザインは、社会の動向と無関係ではないため、時事に即した問題についても随時とりあげる。

## 日本文学 011

Japanese Literature

文学は、自分が生きてきた背景や培ってきた価値観等に基づいて総合的に人間性を探究する営みである。人間には文学作品を読むことを通してしか学べないことがあり、読書習慣は生涯の心の支えになる。この科目では豊かな教養を身につけるために、科学とは異なる、文学独自の人間の捉え方を学ぶ。

世田谷を背景とする文学作品の読解を通して、地域の自然や環境、住民がどのように文学作品の中に描かれているか探究しその価値を考える。また教科書掲載の一般によく知られた子どもの成長を描いた文学作品の読解を通して、子ども時代の感情と思考の経験を共感的に理解する。

## 日本史(1) 012

Japanese History(1)

日本の歴史について、主に古代から明治維新までの前近代を中心に概観し、近代に就ても概略を理解する。その際、各時代の特徴的な資料を読みながら、他の資料にも目を配ることにより、その時代の特徴と時代的な推移を多面的、多角的に眺められるようにする。

## 日本史(2) 013

Japanese History(2)

幕末から現在に至る日本の近現代の歴史を概観する。その際、日本の政治の移り変わりを縦軸に、各時代の社会状況を横軸にとらえながら、時代状況の変化を多面的、多角的に捉えられるようにする。政治の中心ばかりではなく、一般社会の状況にも目を配っていく。

## 西洋史(1) 014

European History(1)

古代ローマから中世末期に至るまでの西洋史を概観する。その際、都市構造の変化を縦軸に、各時代の社会状況を横軸に据えながら、時代的推移を多面的に眺められるようにする。また『グリム童話』などのポピュラーな話を素材にしながら、その背後に隠された時代状況を読み解く。

## 西洋史(2) 015

European History(2)

ルネサンス以降の西洋史を近代まで概観する。都市構造の変化を縦軸に据えながら、各時代の社会状況を横軸に据えて、時代的推移を多面的に眺められるようにする。また飲み物やレジャーなど日常的なものを素材にしながら、それと当時の世界情勢との関係も読み解く。

## 民俗学 016

Folklore Studies

「一日・一年・一生」の民俗学

日本民俗学は日本という地域を主な対象に、人々の生活を大きなスパンで眺めてきました。その中で、特に大事にしてきたのが日常、つまり「当たり前の生活」でした。本科目では、人々の生活感覚に繋がる三つの異なる時間幅としての「一日」「一年」「一生」を軸に、民俗学が注目してきた人々の「当たり前の生活」を、皆さん自身の現在に繋げながら理解を深めていきます。

## 宗教学 017

Religious Studies

三大一神教を中心に、世界で主要な宗教の教義、思想、実践について学ぶ。また、宗教に関する国際問題について学び、宗教が現代社会において果たす役割について考える。

## 社会学(1) 018

Sociology(1)

社会学とは何か、何を明らかにしていく学問なのか。本講義では、社会学は社会のしくみを捉えるひとつの「ものの見方・考え方」とゆるやかに定義し、毎回様々なトピックを取りあげながらそれについて学ぶことを目的とする。

この講義を通じて、社会学の古典において語られてきた見方を理解するとともに現代社会の諸現象や諸問題、そして私たちの身の回りの諸文化を分析的に見る視点を養うことを目的としている。

特に社会学に触れたことのない学生が多いため、できるだけ身近な事例を用いた説明を心がけていく。

What is Sociology? What can Sociology show? This class focuses the fundamental thinking and views of Sociology, giving many different topics.

## 社会学(2) 019

Sociology(2)

社会学とは何か、何を明らかにしていく学問なのか。本講義では、社会学は社会のしくみを捉えるひとつの「ものの見方・考え方」とゆるやかに定義し、毎回様々なトピックを取りあげながらそれについて学ぶことを目的とする。

この講義を通じて、社会学の古典において語られてきた見方を理解するとともに現代社会の諸現象や諸問題、そして私たちの身の回りの諸文化を分析的に見る視点を養うことを目的としている。

特に社会学に触れたことのない学生が多いため、できるだけ身近な事例を用いた説明を心がけていく。

What is Sociology? What can Sociology show? This class focuses the fundamental thinking and views of Sociology, giving many different topics.

## 社会学入門

020

Introduction to Sociology

社会学入門では、社会学で培われてきた基本的な考えかたを学ぶことで、私たちが生きる社会のしくみを読み解いていくための基礎体力をつけることを目的とする。社会は個人の存在なくしてはなりたないが、単なる個人の集まりでもない。私たちは社会によって拘束されているが、社会を変えることも不可能ではない。このようなジレンマをひとつひとつ解きほぐしていくことで、社会の「なりたち」が見えてくる。社会のなりたちを理解することで、私たちが生きる社会への見通しをよくしていく。社会学入門とは、そんな講義である。

## 経済学(1)

021

Economics(1)

経済を把握する際に必要となる基礎的な学問領域はミクロ経済学とマクロ経済学に分けられます。本科目では、それらのうちのミクロ経済学を学習していきます。近代経済学は経済事象をモデル化して実際の事象を説明していく学問です。本科目で経済事象モデルを説明する際には、数式による説明は極力避け、図式による説明を中心にして直観的な理解ができるよう講義していきます。また本科目では経済用語が多く出てくるので、適宜その用語の意味について解説していきます。

## 経済学(2)

022

Economics(2)

経済を把握する際に必要となる基礎的な学問領域はミクロ経済学とマクロ経済学に分けられます。本科目では、それらのうちのマクロ経済学を学習していきます。近代経済学は経済事象をモデル化して実際の事象を説明していく学問です。本科目で経済事象モデルを説明する際には、数式による説明は極力避け、図式による説明を中心にして直観的な理解ができるよう講義していきます。また本科目では経済用語が多く出てくるので、適宜その用語の意味について解説していきます。

## 日本経済論

023

Japanese Economy and Economics

日本経済の現状と課題、およびそれを示す主要指標を学ぶ。最初に日本経済の現状と課題および歴史を概観し問題意識を高める。経済政策の枠組みを学んだあと、財政、金融、地域、企業、雇用、エネルギー、環境などの分野別考察を行い、最後に全体をまとめる。

## 政治学(1)

024

Political Science(1)

政治とは、私たち自身が当事者であるさまざまな問題を共同で解決しようとする営みである。人間の自由な活動は日々新たな問題を生み出す。政治学はそうした問題を理性的に考え、解決や判断を行うための道具箱であると同時に、政治それ自体を批判的に理解するための手段である。本講義ではまず、政治学の方法および基礎概念を簡潔に解説する。次に、現代政治学の基本問題のいくつかを取り上げ、その歴史的な経緯と現状を検討してゆく。

## 政治学(2)

025

Political Science(2)

哲学者たちは古来より政治という営みの本質について、またその在るべき姿について考察してきた。政治とは結局のところ権力者同士の闘争のことであるのか、それとも市民の自由な善き生が開花する場なのか。政府はどのような目的のもとで設立され、その権力行使の限界はどのように画定されるべきか。政治学の目的は、政治という人間の営為を分析・理解する一方で、政治の現実を変革する可能性を示すことにある。本講義は政治学の基本的諸問題を、それらの問題を提起した古典的文献の講読を通じて検討してゆく。時事的問題についても適宜取り上げ、コメントシートを用いて受講者と討論する。

## 日本の政治

026

Modern Politics in Japan

本科目は日本政治における選挙制度や政治・行政の役割といった、政治学における基本的な知識を学ぶ。この科目は、社会科学的な思考を学び、本授業を通じて政治現象に対する見解を持てるようになることを目的とする。授業内容は大きく分けて、①戦後の日本政治の流れを把握する、②日本政治の制度や現在の日本政治の仕組みについて学ぶ、の2点で構成されている。従って、政治学における基本的な知識を身につけること、戦後の日本政治の流れを把握し、重要なポイントを理解することを達成目標とする。

## 国際関係論(1)

027

International Relations(1)

国際関係論の基礎を幅広く学び、基礎知識をつける。国際関係論(1)は、国際関係と現代世界の国際秩序について、主に歴史的変遷と基盤となる理論を扱う。したがって最新の国際情勢が現代的課題を扱うというよりは、国際関係を考える上で必要な基礎を身につけることに主眼を置く。国際関係論(2)は、現代世界の平和の課題を主に扱い、そうした課題への国際的な対処をみて

いく。(2)では、グローバリゼーションを取り上げ、その中で現代の国際社会が直面する課題について学ぶ。

国際関係論(1),(2)は異なる内容のため、いずれかのみ履修も可能だが、両方の履修を推奨する(また、(1)→(2),(2)→(1)いずれの順の履修でも構わない構成をとっている。)

### 国際関係論(2) 028

International Relations(2)

国際関係論の基礎を幅広く学び、基礎知識をつける。国際関係論(1)は、国際関係と現代世界の国際秩序について、主に歴史的変遷と基盤となる理論を扱う。したがって最新の国際情勢が現代的課題を扱うというよりは、国際関係を考える上で必要な基礎を身につけることに主眼を置く。国際関係論(2)は、現代世界の課題を主に扱い、そうした課題と、それに対するグローバルガバナンスの様相、日本とのかかわりをみていく。

国際関係論(1),(2)は異なる内容のため、いずれかのみ履修も可能だが、両方の履修を推奨する(また、(1)→(2),(2)→(1)いずれの順の履修でも構わない構成をとっている。)

### 日本国憲法 029

The Constitution of Japan

世界の歴史において、憲法というものが必要とされた背景をたどりながら日本国憲法の存在意義を学ぶ。憲法は国家の基本法として、とりわけ国政に影響し、国政を通じて国民の日常生活にも関わってくるものであるから、人権の保障、国民の自由および権利、人間の尊厳、平和問題ならびに国家の役割などについて多角的具体的に検討し、現実の諸問題を分析できるような知識を身につける。同時に、このことを通じて、人として持つべき倫理観、また、わが国のみならず諸外国の伝統や文化も尊重する態度を養う。

### 法学 030

Jurisprudence

本講義では、法学についての基礎的なことから概観したうえで、日常生活において特に身近な法である民法について学ぶ。まず、民法の歴史および構造を概観したうえで、個別のルール(総則、物権、債権総論、契約)について学習する。具体的設例の検討を通じて学ぶことで、法の規定を理解するだけでなく、身近な出来事を法的に分析することができる能力(法的思考力)も身につけてもらいたいと考えている。民法のルールは相互に密接な関連があるため、例えば物権について学ぶ回であっても、総則、債権などのルールに言及する場合がある。

### 民法 031

Civil Law

本講義では、日常生活において特に身近な法である民法について学ぶ。具体的には、債権総論、物権、親族、相続について学習する。具体的設例の検討を通じて学ぶことで、法の規定を理解するだけでなく、身近な出来事を法的に分析することができる能力(法的思考力)も身につけてもらいたいと考えている。民法のルールは相互に密接な関連があるため、例えば物権について学ぶ回であっても、総則、債権などのルールに言及する場合がある。

### 西洋経済史 032

Economic History

「大航海時代」を出発点にして、ヨーロッパとアメリカ大陸、アジアの経済的関係を概観した上で、産業革命の実態と社会的影響力、産業構造の転換、消費型社会の誕生、スタンダード・テクノロジーの登場、世界恐慌とニューディール政策などを講義する。

### 人文地理学 033

Human Geography

本講義では、人文地理学の意義と役割、研究成果などについて説明しながら、自然と人間との関わりをさまざまな空間スケールで捉えて考察していく。随時、具体的な地域事例を取り上げて解説する。最後に、人文地理学の課題について考えさせる。

### 現代中国論 034

Contemporary Chinese Society

中国の名目国内総生産(GDP)は2010年に日本を追い抜いて世界第2位となった。2020年代には米国を抜いて第1位になるとの予測もあり、「21世紀は中国の時代」「世界の工場」といった将来性の高さが期待・注目されるが、その一方で、「バブルの崩壊」や「シャドバンキング(影の銀行)」問題といった先行きへの懸念が取り沙汰されることも増えつつある。中国経済の高成長の背景には1970年代末以降の「改革・開放」政策による経済的な資本主義制度の導入があるが、政治的には社会主義が堅持され、共産党の単独独裁が維持されている。また、近年の日中関係は靖国神社問題や尖閣諸島問題などをめぐって摩擦が絶えず、1970年代初めの関係正常化以来で「最悪の状態」との評さえる。本講義では、このような中国内外の現状や諸問題について、様々な視点から検討してゆく。

## 教育学(1)

035

Education(1)

人間は次世代の育成をつねに考え、そのために努力してきた。それゆえ教育についての社会的な関心は大変強いのだが、教育それ自体について深く考える機会は多くない。この授業では、現代の教育問題を偏見や固定観念にとらわれず議論するための、教育に関する事実や概念の正確な認識の習得を目指す。講義の前半では、おもに歴史上の思想家たちによる教育論を検討していく。続いて海外の教育状況を考察し、後半ではこうした論を単なる知識の習得におわらせず、現代の教育問題にどのように適用できるかを議論していく。

## 教育学(2)

036

Education(2)

近現代日本の教育について歴史的に考察していく。その出発点として、いわゆる前近代の教育状況の検討からはじめ、基本的には時代順に現代教育の諸問題まで扱う予定である。考察の対象は教育についての歴史的事実と思想だけでなく、教育と深く関わる言語や芸術、社会論なども含める。近現代史に関しては今でも見解の分かれる論点が多数ある。それゆえ講義では近現代の教育に関する具体的な知識だけでなく、現代の私たちが考え判断するための素材を提供すべく、可能な限り偏りなく多くの議論を紹介していく。

## スポーツ・健康論

037

The theory of Health, Physical Fitness and Sports

現代社会における心身の健康に関する諸問題やスポーツをとりまく現状について考えるとともに、生涯にわたって健康な生活を送るために必要な知識について解説する。

## 心理学(1)

038

Psychology(1)

心理学の基本領域のひとつである学習と動機づけを中心として自己および他者の行動、またその変容について理解することを目的とする。ただ単に心理学の知識を獲得するのではなく、自分自身の体験と理論を各自が結びつけられるようにしたい。

## 心理学(2)

039

Psychology(2)

人間の発達と教育という心理学上の重要なテーマを中心として、遺伝、環境、自己認知の関連を理解することを目的とする。ただ単に心理学の知識を獲得するのではなく、自分自身の体験と理論を各自が結びつけられるようにしたい。

## 心理学概論

040

Basic Psychology

「心理学」がひとつの科学としてどのように発展してきたのかを、最新の知見を通して学んでいきます。いろいろな分野・領域の心理学に触れ、心の不思議さやその仕組みを理解し、自己や他者への洞察を進めていきます。また、生涯にわたる自己変革と豊かな人間関係を築いていけるような学習者としての資質向上をはかることを目指します。

## 心理学入門

041

Introduction to Psychology

ここでは心理学における二つの対立するパラダイムについて概説する。一つは、知性を「心」の内部に展開する表象活動に由来するもの、したがって人間が自身で作り出すものとみなす見方、もう一つは知性を人間と環境の相互作用が生み出すもの、人間と環境が相互的に構成するものとみなす見方である。前者は私たちには馴染みが深く、現代心理学の主流派の見方で、そこから認知科学なども派生してきた。他方、後者はアフォーダンス心理学あるいは生態心理学と呼ばれ、近代に特徴的な心身二元論を超越しており、今後、革新的理論として隣接領域にも大きな影響を与えると期待されている。ここでは二つの見方がどのように異なるのか、アフォーダンス理論の革新性とは何かについて学ぶ。

## 社会とジェンダー

042

Gender in Society

ジェンダーとは社会的に作られた性別、性差という意味である。「男は仕事、女は家事」といった性別役割分担など、この社会で観察される多くの「性差」の大部分は従来、自然なことだと考えられてきた。それに対し、ジェンダーという概念は、これらの性差は自然でも、必然でもなく、社会的に構築されたものだと思える視点を与える。本授業では、私たちを取り巻く社会の課題をジェンダーの視点で考察し、人々の生活と日本の政治・法律・社会制度と国際社会との関連などを理解する。

## 国際化と異文化理解

043

Globalization and Intercultural Understanding

国際化が進む現代社会では、様々な文化背景の人々と関わり協力することが必須である。私たちの日常生活や子どもを取り巻く環境においても、異文化と多文化共生について理解を深める必要性は高まっている。日本の文化や保育について再認識し、異文化間で生じる問題と対処方法について理解を深めることを目指す。自分と異なる文化を持つ他の民族に関心を寄せ、尊重し理解するこ

と、さらに幼児期の発達上の問題をふまえて実際に関わる方法を探る。

### 日本文化の伝承 044

#### Transmission of Japanese Culture

日本文化の一つである茶道は華道・香道・能・狂言といった芸能など様々な伝統文化が活かされてる。

この講義ではその茶道が現代でどのような役割を果たしているのか、茶道の歴史をさかのぼり茶道の真意・点前の意義・懐石の意味やマナー、茶室などの数寄屋建築といった衣食住の重要性を学びます。

現代を生きる知恵を学びましょう。

### 論理学(1) 045

#### Logic(1)

論理学は推論(前提からある主張を結論として導き出すこと)について研究する学問である。そして推論には正しい推論と正しくない推論があるが(前提から結論を「ちゃんと」導き出せている推論とそうでない推論があるが)、それらがどのような点において区別されるのかを学ぶことが本講義の目的である(この講義では、「タブローの方法」と呼ばれる方法の学習を通じてその点を学ぶことになる)。また、そうした学習を通じて論理というものについての理解を深めてもらうとともに、論理的に考える能力を養うことも目的とする。

### 論理学(2) 046

#### Logic(2)

論理学は推論(前提からある主張を結論として導き出すこと)について研究する学問である。そして推論には正しい推論と正しくない推論があるが(前提から結論を「ちゃんと」導き出せている推論とそうでない推論があるが)、それらがどのような点において区別されるのかを学ぶことが本講義の目的である(この講義では、「自然演繹」と呼ばれる方法の学習を通じてその点を学ぶことになる)。また、そうした学習を通じて論理というものについて考えを深めてもらうとともに、論理的に考える能力を養うことも目的とする。

### 生活とメディア 047

#### Media and Society

人間科学部カリキュラムポリシー1に則り、本講義では、日常的なメディアや、メディア利用状況を取りあげ、それらが私たちの生活にどのような影響を与えているかを論じる。具体的には、プリクラやケータイ小説、SNSといった、私たちの認識や思考に強く染み込んだメディアについて、認知科学や社会文化学的の観点から概説す

る。またあわせて、講義の後半では今日的な場のデザインや文化構築とメディアとの関係を取りあげる。

In this course, the examples of fieldwork studies in mundane daily life and workplace are introduced. This Class is designed to help students develop critical reading about media culture. During the semester I will explain the articles of media studies in sociology and cognitive psychology.

### 公衆衛生学 048

#### Public Health

豊かな人間性に根差した学際的教養と「知」の基盤となる横断的基礎知識として本科目の概要は以下の通りである。

共同社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、生命を延長し、身体的・精神的・社会的健康を保持・増進を図るため、母子保健、環境保健、産業保健・労働衛生、疾病予防、保健・福祉、健康教育、健康管理、衛生行政、医療制度および社会保障などの基本的概念を学ぶ。また、プライマリ・ヘルス・ケアおよびヘルスプロモーションの概念を学び、さらに、集団での各種疾病や中毒の予防、診断などについて、疫学、統計学などの技術を学び、科学的根拠に基づいたデータの評価方法を知り、応用として、健康教育・政策・管理が自ら立案できるよう学習する。具体的には、シラバスにそって、公衆衛生の観点に立って健康を意識し、視野を高めると同時に、自ら自発的に公衆衛生活動ができるように教育する。公衆衛生学の学習は、保育所や幼稚園など集団生活を営む機関において、特に就学前の成長・発達の著しい園児の健康の保持、増進を図る上で、極めて重要であるばかりでなく、そこで働く保育・教育者の健康の保持・増進においても、最も基本的で重要である。

### 現代の物理 049

#### Contemporary Physics

20世紀に大きな発展を遂げた現代の物理は、科学の多くの分野と関連し、環境や情報を含む技術の重要な基礎となっている。社会は科学と技術の発展を基に作られているので、誰でも物理学を学ぶことが望ましい。この講義では、大事で面白いテーマを、できるだけわかりやすく取り上げる。

### 科学技術と社会 050

#### Science, Technology and Society

現代の社会は、科学と技術の発展をもとに作られていて、科学と技術は社会に不可欠の要素である。しかし、一方で、科学技術は我々の意識の中で縁遠くなりつつあり、地域—地球環境問題のような負の影響も無視できな

い。この講義では、科学と技術の歴史をふまえ、それらと社会とのかかわりを具体的に考察する。

### 情報処理演習(1) 051

Seminar on Information Technology(1)

情報化された現代社会におけるコンピュータやインターネット、情報の役割と意義について考え、必要な知識と技能、さらにはこれらを使いこなす知恵を養うことを目的とし、情報倫理について学ぶ。また、コンピュータソフトウェア「Microsoft Office」に内包される基本ソフトウェア「Microsoft Word」の操作方法を習得し、幼稚園や保育所などの職場環境で多用される文書作成のスキルアップを目指す。

情報機器を活用した今日的なビジュアルコミュニケーションを具現化することに主眼を置き、文字・画像を含めた様々な情報を訴求対象者にいかに美しくかつ機能的に伝達するかということをテーマに文書作成実習を行う。

### 情報処理演習(2) 052

Seminar on Information Technology(2)

「Microsoft Office」に内包される基本ソフトウェア「Microsoft Excel」「Microsoft PowerPoint」の操作方法を習得し、教育実務や保育実務において必須となる情報機器を活用した表計算やデータベース機能、グラフ作成、さらにはプレゼンテーション作成について習得する。

### 情報処理演習(3) 053

Seminar on Information Technology(3)

今日では幼稚園や保育所などの教育・保育環境において視覚化されたデジタル情報をコミュニケーションツールとして活用することが一般化し、デジタルフォトの管理、スライドショー、インターネットによる情報発信などに関するスキルが求められつつある。そういった時代背景を踏まえ、画像についての知識を習得しPhotoshop Elements による簡単な写真加工の技術を学ぶ。次に、Dreamweaver にて簡単なWEBページを作成し学内にアップロード、WEBサイトの仕組みを学ぶ。また、コンピュータ機器を活用した視聴覚コンテンツ制作の基本を学びながら、情報処理演習(1)～(2)で学んだOfficeアプリケーションについても、より使いこなせるよう実習する。

### 情報処理演習(4) 054

Seminar on Information Technology(4)

今日では幼稚園や保育所などの教育・保育環境において視覚化されたデジタル情報をコミュニケーションツールとして活用することが一般化し、スライドショー、

動画作成などに関するスキルが求められつつある。

情報処理演習(1)～(3)で学んだOfficeアプリケーションや、画像加工の知識を生かし、グループで問題を設定し解決し、プレゼンテーション作成・発表を行う。

次にWindowsムービーメーカーを使用し、ムービー作成を行う。

### PBLによる産学協働演習 055

Industry-University Collaborative Practice on Project Based Learning

授業形式は、グループワークによる討議とプレゼンテーションを中心とした演習とする。企業からの課題に対して、専門分野の異なる学生がグループワークを重ね、アイデアをプレゼンテーションし、それを企業が講評するというPBL(Problem based learning)である。グループワークによる実社会の課題への取り組みや発表・討論において、アイデア提案や議論、目標設定や計画の遂行を経験する。これらを通じて、社会人として必要な力を理解し、今後の学修に必要な主体性を体得することを目標とする。

### ボランティア(1)～(2) 056～057

Volunteer(1)～(2)

学生の自発的な意志により、個人が持っている能力あるいは労力をもって災害、人権、福祉、平和などの他人や社会に貢献する国内で行われる無償の活動を体験するものである。得られた体験や知見をまとめた活動報告書等により評価し、単位認定を行う。

### 教養ゼミナール(1)～(2) 058～059

Cultural Seminar(1)～(2)

この科目は、名称・内容ともに各教員の積極的な提案により、双方向性を前提として少人数の学生を対象に開講する。学生はこの科目において、教員の熱意と蘊蓄を傾けたゼミ内容に魅せられるであろう。また、少人数で学年・学科を問わず履修できるので学生同士や教員との人間的な交流も深められるはずで、学生にとっても極めて有益であろう。

なお、教養ゼミナールは、4単位まで「教養科目」区分の卒業要件として認められる。開講されるゼミは、年度によっても異なるので、時間割等で確認すること。

### 教養特別講義(1)(2) 060～061

Special Lecture of the Liberal Arts(1)(2)

## 外国語科目

**Communication Skills(1)** 062

## Communication Skills(1)

本科目は一年生全員を対象にした必修科目である。プロセスメントテストを実施し、その結果を踏まえ履修者を4レベル（基礎、初級、中級、上級）に分け、授業を行う。主にリスニングとスピーキングの練習を通じて、レベルに応じた英語コミュニケーション能力の向上を目標とする。リスニングに関しては、テキストの文字と音声を照合させながら、音声への抵抗感をなくし、話し言葉における独特のリズムに慣れる。更にペアやグループワークを利用し、平易な英語を用いて、意思疎通が図れるように練習する。原則、基礎から中級レベルまでは日本語を中心とした説明を行い、上級クラスでは英語を中心として授業運営を行う。同じ必修科目の Reading and Writing(1)とのリンクを図り、同一トピックを各科目で扱うなどして、四技能統合型授業を目指す。The aim

**Communication Skills(2)** 063

## Communication Skills(2)

Communication Skills(1)と同様、一年生全員を対象にした必修科目であり、4つのレベルに分けた授業を展開する。英語でのコミュニケーション能力を更に向上させることを目標とするが、基礎レベルでは基本的な表現を復習し、身近で日常の物事に関する簡単な情報交換を行う力を身につける。初級レベルでは簡単な話を作り、聞き取る実力を身につける。中級レベルではより実践的な会話力を高め、英語話者と緊張なく会話ができるための技術を修得し、自信をつける。上級レベルでは更に上の英語運用力の開拓を目指し、自分の考えをより正確かつ流暢に表現できる能力の習得を目指す。本科目は原則、日本語と英語を織り交ぜた演習形式で実施するが、上級クラスでは英語を中心として授業運営を行う。同じ必修科目の Reading and Writing(2)とのリンクを図り、同一トピックを各科目で扱うなどして、四技能統合型授業を目指す。

**Reading and Writing(1)** 064

## Reading and Writing(1)

本科目は一年生全員を対象にした必修科目である。プロセスメントテストを実施し、その結果を踏まえ履修者を4レベル（基礎、初級、中級、上級）に分け、授業を行う。平易な英語で書かれた様々な内容の文章を読み、読解力を向上させ、論理的な思考力を養成する。リーディング演習を通して語彙、文法、構文の英語基礎力を向上させ、平易な文章の主題を十分に理解すると共に、読んで得た情報について見解を表現できるようにする。ま

た、トピックの背景を学び、異文化理解、知的好奇心を高める。同じ必修科目の Communication Skills(1)とのリンクを図り、同一トピックを各科目で扱うなどして、四技能統合型授業を目指す。

**Reading and Writing(2)** 065

## Reading and Writing(2)

Reading and Writing(1)と同様、一年生全員を対象にした必修科目であり、4つのレベルに分けた授業を展開する。様々な内容の英文を読み、それに関する見解を英語で書くことを練習し、読解力と表現力の向上および論理的かつ批評的な思考力の養成する。リーディング演習を通して語彙、文法、構文の英語基礎力に加えて、パラグラフや全体の構成を把握し、十分に主題を理解すると共に、幅広い内容について、複数の見解を適切に関連づけ、自分の意見を詳しく記述するライティング力を養成する。また、トピックの背景をより詳しく学びながら、異文化理解を深める。同じ必修科目の Communication Skills(2)とのリンクを図り、同一トピックを各科目で扱うなどして、四技能統合型授業を目指す。

**Basic English Training** 066

## Basic English Training

本科目では、初級レベルの学生を対象に、英語の基礎力を定着させることを目的とする。基本的な語彙や基礎文法の確認をすると共に、平易な英語が聞き取れるようになるよう、リスニング練習を重ねていく。また、比較的短い読み物の読解や、センテンスライティングも行い、読む、書く、聴く、話すという英語の四技能すべての基礎を固めることを目標とする。そして、テレビドラマや音楽、アニメ、絵本などの教材も利用しながら、多面から英語を学ぶ方法を体験し、英語や英語圏文化への興味を深めていく。また、学んだ内容を使って身近な事柄についての表現活動も行う。

**Grammar(1)** 067

## Grammar(1)

本科目では、既習の基本的な文法を確認し、復習することを目的とする。平易な英文を読む際に、その理解の基礎となる文法力を養う。また、身の回りの出来事や個人的な経験について、日常生活語彙を用いて文章で表現する際に必要な文法事項を取り上げ、学習した知識を正確な英文で表現できるような基礎力を養う。また、構文の知識を深めるために、文の分析を行い、文法および構文の形式とそれが表す意味について検討を加えていく。

**Grammar (2)**

068

## Grammar (2)

本科目では、基礎的な既習英文法を体系的に捉え直し、アウトプットに向けて文法理解をより一層深めることを目的とする。身近な事柄に関して、ある程度の文体を整えて文章を書く力を培う。特に、今まで学習した英文法が、単文や複文においてどのように機能するのか演習を通じて理解し、実際に使用できるようにする。また、より専門的な内容に関する言い回しや学術論文における文構造にも目を向ける。到達目標として、幅広い内容において、明瞭かつ詳細な文章を作ることができることを目指す。

**Test Taking Skills (1)**

069

## Test Taking Skills (1)

本科目では、TOEICなどの資格試験の受験経験があまりない学生を対象に、効果的に点数を獲得するためのスキルの修得を目指す。資格試験で頻出の文法事項を初歩から徹底的に復習することで文法基礎知識の定着を図ると共に、語彙力を増強し、リスニング、読解力を養成する。リーディングでは、素早い読解に必要なスキミング、スキヤニング力を、リスニングでは、短い設問のポイントを素早く掴むコツをそれぞれ身につけていく。特にリスニングでは、イギリス、カナダ、アメリカ、オーストラリアなど、国によって異なるイントネーションやアクセントにも対応できるように演習を重ねる。

**Test Taking Skills (2)**

070

## Test Taking Skills (2)

本科目では、問題演習をこなすことで、資格試験の問題の傾向やパターンへ対応力をしっかり身につけていく。曖昧な点についてはその都度きちんと理解し、疑問点は必ず解消するようにして、苦手な箇所に重点をおきながら学習に取り組んでいく。高得点獲得に必要なスキルに焦点を当てながら、英語学習の方法論や姿勢まで身につけることで、目標スコア到達の先に広がっている可能性を意識し、学習意欲を高めていく。リスニングでは完璧に近い理解をめざし、リーディングでは速読訓練により、問題の解答速度アップを目標にして、本番での対応力を身につけていく。

**Test Taking Skills (3)**

071

## Test Taking Skills (3)

本科目では、主に海外の大学進学希望者を対象に、IELTS, TOEFLなどの資格試験での高得点取得を目指す。授業では、英文の効率的な読み方・聞き方を本格的に修得し、「試験の各設問では何が問われているのか」を確

実に把握する。語彙や文法問題が苦手な人には読解を再確認し、日常的に英語に触れる機会のない人にはリスニング力を中心に効果的にスコアを伸ばせる授業をアレンジする。同時に、スコア達成に必要な不可欠なレスポンス力、速読の秘訣、時間配分の育成も図り、早く読む練習、正答率を上げるストラテジーを学んでいくことで、本番での対応力を身につける。

**Critical Reading (1)**

072

## Critical Reading (1)

本科目では、平易な英文をたくさん読むことで、基本的な英語読解力の定着をはかる。精読とは異なるアプローチ（多読・速読中心）により、英語を英語のまま理解する力を伸ばすと共に、読み物の内容や背景について考えようとする姿勢も身につける。基本的なリーディングストラテジーを段階的に身につけ、直読直解につなげることを目標とする。さらに、英語を読むことを通じて、積極的に英文のメッセージを読みとろうとする好奇心や、それに対して自分の意見を発信しようとする姿勢を体得する。

**Critical Reading (2)**

073

## Critical Reading (2)

本科目では、基本的な文法事項を学んだ学生を対象にし、雑誌記事や論説文、学術論文などを通じて、英語読解力を鍛え、論理的な議論や表現方法を学ぶ。多種多様な英文を読みこなしていくことで、語彙を増やししながら、定型表現などに触れ、英文の論理を読み解く力を養成する。英語特有の表現方法や、日本語と英語との言語構造や習慣の違いなど、言語に対する洞察を行うことで、より深い英文理解を目指す。ディスカッションや英語で意見を述べるなど、スピーキングやライティングの技能も共に鍛えることで、文章読解のより深いレベルを目指す。

**Critical Reading (3)**

074

## Critical Reading (3)

本科目では、欧米の新聞記事やニュース、学術的な文章などを通じて、物事を深く理解するための多面的な視野を習得する事を目標とする。英文の表面的な意味の把握だけでなく、筆者の主張や立場、その背景にある社会事象や文化などもリーディングを通じて学ぶ。また、英語によるディスカッションやライティングなど、リーディングを土台にしたうえで、コミュニケーションや表現力などアウトプットのスキルも総合的に鍛えることを目指す。基礎的な英文を正確に理解し読みこなす力があることが受講の前提となる。

**Critical Listening(1)** 075

## Critical Listening(1)

本科目では、初級レベルの学生を対象とし、特に聴解力養成に主眼を置いた授業を展開する。授業では、英語と日本語の音声の違いを確認し、英語特有の発音やリズム、そして脱落、同化、弱化、リエゾンなどの音声変化を体系的に習得しながら、英語を正しく聴き取る力を身に付けていく。そして、日常生活での簡単な会話表現を学びながら、ロールプレイやペアワークなどの演習を通して、英語でのコミュニケーション力を養うことを目指す。

**Critical Listening(2)** 076

## Critical Listening(2)

本科目では、主に映像作品や英語圏の音楽などの文化的な教材を活用して英語を学ぶ。リスニング、ディクテーション、読みの演習を交えながら、英語特有の音声変化やリズムに慣れ、速いテンポの会話も聞き取れるようになることを目指すほか、シチュエーションに応じた英語表現を学んでいく。そして、場面の再演、ロールプレイなどを通して、英語での発話力の向上にもつなげる。また、授業で扱う文化的産物に表象された歴史や文化的背景、社会問題を知り、それに関する討論なども行いながら異文化理解を深め、批評的思考を養う。

**Critical Listening(3)** 077

## Critical Listening(3)

本科目でも、映像作品や音楽などの文化的な教材を活用しながら、さらなるリスニング力向上を目指す。標準的な英語の発音だけでなく、様々な国で話される英語のアクセントにも慣れ、また、多岐にわたる場面で発話される英語のニュアンスをくみ取り、それを実際に運用できる能力も養う。さらに、扱う教材に関するリサーチプレゼンテーションや討論も行うことで、批評的に読み、聴き、考える力も高めていく。授業は原則として英語で行われる。

**Communication Strategies(1)** 078

## Communication Strategies(1)

本科目は、初級レベルの学生を対象とした技能向上型の科目である。対話形式の演習により、英会話を行う上で必要な基礎的な技術を身に付け、人前で臆せず話せるようになるための自信を培うことを目標とする。4技能を統合した能動型授業活動を通じて、言語発話や内容理解の過程に目を向け、学生自身の考える力も伸ばすことを目指す。そのため会話の演習に留まらず、リーディングやライティング活動を踏まえた討論等の授業活動を重視する。

**Communication Strategies(2)** 079

## Communication Strategies(2)

本科目は、中級レベルの学生を対象とした技能向上型の科目である。多種多様な文化的・社会的事項に目を向け、言語としての英語のみならず、英語圏の文化・社会的背景に対する理解を深めることを目標とする。本科目ではリーディングやライティング活動を踏まえた4技能統合型の能動学習活動を促すことに加え、使用に注目した文法理解にも目を向ける。英語に関する教養や技能向上を推し進めることで、上級クラス履修の足掛かりとする。

**Communication Strategies(3)** 080

## Communication Strategies(3) Modern Society

本科目は、上級レベルの学生を対象とした技能向上型の科目である。対話形式の演習を通じて、効果的な意見の伝え方や発話の言語構造に目を向けることで実践的な英語力向上を目指す。一般会話に縛られた活動を飛び越え、自らの意見を説得力ある形で英語にて産出する演習を重ねる。ペアワーク・ディスカッション活動やスピーチ後の質疑応答等によって、よりアカデミックな考察力や教養を培い、グローバルな社会人としてのスキルを身に付けることを目標とする。本科目では英語の使用を原則とする。

**Academic English(1)** 081

## Academic English(1)

今日、大学では学問領域を問わず、いかなる分野でも自らの考えを構成し、効果的に発表するプレゼンテーションやパラグラフ・ライティングの能力が求められる。本科目では、1年次に修得した英語の基礎スキルを土台として、大学生に必要なリサーチ、プレゼンテーション、ライティングの各能力を養成することをねらいとする。テキストとオンライン教材を使ってグローバルな状況を意識した授業を実施する。英語プレゼンテーションでは必須である原稿作成のための文章構成、論の展開、発表スタイル、また質疑応答の仕方について学ぶことができる。

**Academic English(2)** 082

## Academic English(2)

Academic English(1)で習得した・英語プレゼンテーションやパラグラフ・ライティングの能力をさらに高めるため、課題テーマへのグループ・プロジェクトも取り入れる。そのプロセスでは受講生が相互に相互評価し合い、改善について議論を行う。効果的なプレゼンテーション技能の修得、及びライティングによる表現力向上によって、さらに自己発信能力を高めることを目指す。オ

ンライン教材でも利用される TED や学術雑誌・論文のサマリーなども教材として活用し、実践的なコミュニケーション能力を向上させることをねらいとする。

### Academic English(3) 083

#### Academic English(3)

海外留学やインターンの希望者や経験者、また将来、職業・研究等で高い英語コミュニケーション能力を必要とする人向けの科目である。受講生の関心に合ったテーマをもとにプロジェクトを設定し、そのプロセスでは英語による問題発見及び解決のためのディスカッションを重ねてテーマを探求する。個人のみならずグループ活動も重視し、対話、交渉、問題解決に必要なコミュニケーション能力の修得をめざす。授業は原則英語で行われる。

### Literature in English(1) 084

#### Literature in English(1)

本科目は、初級レベルといえる英語圏の絵本や、児童文学を含む平易な文学作品をはじめ、様々な作品に多く触れることによって読解能力を伸ばすと共に、文学を知り、理解するための入門コースである。英語圏だけでなく、英訳された他言語圏の文学を扱い、詩、戯曲、小説、自伝など、さまざまな文体と形式をもった作品を活用しながら、文学の土台となる知識を深め、その活用方法についても実践的に学んでいく。文学を聴くこと及び読むことによって理解し、文学作品に含まれるテーマ、登場人物、視点、背景、シンボリズムなど、作品分析に欠かせない要素についての知識を深める。

### Literature in English(2) 085

#### Literature in English(2)

本科目では、Literature in English(1)の既修者や、すでに文学に馴染みのある学習者を対象とし、英語圏だけでなく、英訳された他言語圏の文学も扱いながら、文学理解をさらに向上させる。作品分析・批評の手法を確認しながら、作品の内容のみならず、作家や作品の文化的・歴史的・社会的背景についての知識を深め、読解力、分析力、批評力を高めていく。授業は、発表や討論を中心に進められる他、クリエイティブライティングのコツも学んでいき、簡単な創作活動にも挑戦する試みを行う場合もある。

### Global Culture(1) 086

#### Global Culture(1)

世界には多様な文化がある。複雑化した今日の社会をより理解しようとするためには、様々な民族、宗教、生活様式、歴史等の「文化」を考慮することが多分に求め

られている。本講座では、世界の文化を学問的に理解するための入門講座として位置づけられている。授業で扱う具体的なテーマ例としては、欧米圏の社会風俗や世界各地の神話伝承、言語の歴史といった内容があげられる。上記等のテーマを通じて異文化に触れ、異文化と自国文化との差異を考察することで、個々の受講者自身にとって重要な気づきを得ることができよう。講義は日本語で行い、受講に関して特別な要件は設けない。

### Global Culture(2) 087

#### Global Culture(2)

一口に文化といっても、その内容には多様性がある。本講座では、世界の文化に関するトピックを取り上げて、それについて多角的に考察し、議論することを目的とする。例えば、アメリカの黒人文化を扱う場合、社会状況、様相、アメリカ大陸へ辿り着いた歴史、使用言語等、様々な視点でその文化の特徴を考察することで、トピックに関するより深い理解が得られるだろう。またそうした考察、議論を通じて新たな視点が生みだされ、他の事例に応用できることも期待できる。原則として、英語を使用する講座となるため、ある程度英文や英語の音声に慣れている学生の参加を求めたい。

### Language Sciences(1) 088

#### Language Sciences(1)

言語学は過去から現在に至るまでの言語を対象とし、その形式や役割を分析・研究する学問範囲である。人間の主要行動の一つである言語を分析することで、人々がどのようにして言語と向き合い、使用し、発展させているのか、また言語とは何かを問う。本講義は入門科目として、初めて言語学を学ぶ学生（文理を問わない）を対象とする。言語学の諸分野（音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論等）を切り口にして言語の成り立ちや構成、メカニズムを考察する。我々の「ことば」に対する知見を広げることで、教養を高めることを目標とする。講義は日本語で開講し、履修のための特別な事前条件は設けない。

### Language Sciences(2) 089

#### Language Sciences(2)

言語活動は単に意味伝達の手法に限らず、むしろ規律正しく構成された社会行動でもある。本講義は実証的な観点から我々の言語活動を科学する。本科目では言語の実例に基づき、言語の音声分析や会話構造の規律性といったマイクロ分析や、言語学における統計学などマクロ的な手法を導入する。これら分析手法は文理を問わず他分野に応用できる教養である。言語分析を切り口として、各種分析手法の理解や実践を経て、最終的には実際に研

究を行い結果の産出が出来るようになることを目標とする。本科目は原則英語で行う。また、入門科目である Language Sciences(1)との同時・事前履修が望ましい。(ただし履修のための必須条件ではない。)

### Global Society(1) 090

#### Global Society(1)

インターネットで繋がれた現代社会においては、情報は瞬時に全世界へと流れていく。そしてその情報の大半は、英語によってもたらされる。この科目では、刻々と変化する現代社会で起きている出来事について、英語を通じて情報収集し、理解し、批判的考察を行うための基礎力を養うことを目的とする。扱う内容は、受講生にとって身近な話題である、世界の同年代の人々の生活や、文化、価値観等で、受講生はソーシャルメディアを含めたメディアを通じてもたらされるこれらの話題について英語で情報を視聴し、正確に内容を理解し、その事象への興味関心を深めていくことが期待される。

### Global Society(2) 091

#### Global Society(2)

Global Society(1)で学んだ知識を基に、グローバルシチズンシップの感覚を養うことを目的として、英語を通じて情報収集し、理解し、批判的考察を行っていく。この科目を通して、他人を尊重すること、個人の権利と責任、人種・文化の多様性の価値など、グローバルな社会の中で円滑な人間関係を維持するために必要な事柄への気づきや発見を促すことを目的とする。扱う地域や話題は、地球規模で起きている環境問題や人種、紛争問題、その背景となる歴史、経済問題等を主とする。受講生はこれらの話題について正確に内容を理解し、自らの意見を発信することが期待される。

### 海外・特別選抜セミナー 092

#### English seminar for Overseas Study

本学が指定した海外の施設や大学等での語学研修に参加する。これらの活動を通じて、対象とする言語の習得を促すとともに、国際的な視野や異文化理解など、現代社会で必要とされるバランス感覚や判断力を磨くことを目指す。必要に応じて事前研修や帰国後の成果発表などを課すことがある。研修先での授業時には、自主的かつ積極的な授業参加を前提とする。語学への学習意欲のほかにも、授業や研修に対して貢献する積極的な態度、異文化への洞察力、本学の学生としての責任感などを持って参加することが望まれる。

### 外国語特別講義 093

#### Learning English for Specific Purposes

本科目は、世界各国に関わる様々な議題を扱う上級者向けの講座である。外国語学習と密接に関わる文化・社会背景に注目し、領域横断的な学習活動を経て教養を身に付けるとともに、他者を理解し尊重する姿勢を培う。日本を含む世界各国の歴史、文化、社会情勢、経済問題などについて知識を深めながら、批評的な考察を行い、議論や発表を通して、自らの考えを明確に表現できる力を養う。グローバル社会において様々な他者と関わる中で、自分が何をしたいか、何をすべきか、何ができるかを常に考えながら生きることが出来る基盤を築きたい。

### ドイツ語(1) 094

#### German(1)

本科目はドイツ語初級者向けの授業である。ドイツ語がどのような言語であるかを理解し、人称代名詞や動詞の変化など、最も初歩的な文法事項を習得していく。そして、それら基底知識を活用して、短文理解や、挨拶や自己紹介をはじめとした、簡単な会話表現ができるようになることを目指す。授業ではドイツ語技能検定試験(独検)5級レベルを見据え、日常生活でよく使われる簡単な表現や会話を演習を通して身につけると共に、ドイツ語圏の文化や社会にも触れていく。

### ドイツ語(2) 095

#### German(2)

本科目は原則ドイツ語(1)を履修済みの学習者を対象とする。基礎的な動詞の使い方や、名詞の性と格など初級文法全般を身に付け、日常生活に必要な基礎表現の習得、発音精度の向上を目指し、より幅広い話題での読解力やコミュニケーション能力を会得する。また、また、授業ではドイツ語圏諸国に関する歴史や社会、文化背景などの話題を扱い、異文化理解も深めていく。ドイツ語技能検定試験(独検)4級レベル以上への到達を目指し、簡単な内容のコラムや記事などの文章を読む等のより実践的な演習が中心となる。

### フランス語(1) 096

#### French(1)

本科目はフランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項や発音の習得や、辞書の使い方を定着することで、中級以降へ進むための基盤を培う。実用フランス語技能検定試験(仏検)5級レベルへの到達を目標に設定し、単に文法や単語を覚えるだけでなく、演習を通して、習熟度を高めていく。授業においてはフランス語の基本的な語彙や文法項目を中心に、簡単な作文や日常会話で頻度の高い基本的表現の理解と運用を

重視すると共に、フランス語圏文化や社会についても学んでいく。

### フランス語(2) 097

French(2)

本科目は原則フランス語(1)を履修済みの学習者を対象とする。フランスの歴史や社会、文化背景など幅広い話題に注目しながら、平易な内容の読解活動などを通じて既習の文法知識を定着させる。フランス語の質問に対し、聴いて理解でき、それに対する応答が臆さずできるようになるだけでなく、フランス語圏諸国に関する知識を増やししながら、ある程度の分量の文章を正確に読み解く力の習得を目標とする。実用フランス語技能検定試験(仏検)3級~4級レベル到達を目指す。

### スペイン語(1) 098

Spanish(1)

本科目はスペイン語初級者向けの授業である。スペイン語圏の社会・文化について学びながら、スペイン語の基礎的コミュニケーション能力の獲得を目指す。具体的には発音練習や辞書の使用法への理解を基に、本言語独特な動詞の活用や時制の用法など最も初歩的な文法事項の定着と運用力の構築を目指す。授業では発音練習、基本的な挨拶表現や言い回しの練習から始まり、品詞変化や活用を理解するための演習が中心となる。また、自己・他者紹介や日常生活でよく使われる平易な表現が運用できるよう発話を中心とした活動も行う。

### スペイン語(2) 099

Spanish(2)

本科目は原則スペイン語(1)を履修済みの学習者を対象とする。基礎的なスペイン語を理解し、初歩的な文法を駆使し日常生活に必要な表現や幅広い話題における文の運用に注目する。スペイン語圏諸国の歴史や社会、文化背景を扱いながら、基礎文法の理解を固め、より複雑な文章を理解し運用出来るようにする。授業では、ある程度まとまった文の読解活動や、身近な話題に関する表現や質疑応答を伴う発話活動などを中心に行う。授業においては適時、必要に応じて発音練習や文法事項の解説、語彙の確認を行う。

### イタリア語(1) 100

Italian(1)

本科目はイタリア語初級者向けの授業である。イタリア語の最も基礎的な文法事項を学び、発音を習得しながら、イタリア語の初歩的なコミュニケーション力を培う。特に、挨拶や自己紹介など日常生活で必要となる表現が適切に使えるようになることを目指す。辞書の使用法も

学びながら、発音練習を重ねると共に、ペアワークなどを通して臆せず発話ができる力を獲得する。授業では、基礎文法の定着を目標とした活動や演習を行うほか、イタリアの文化にも触れていく。

### イタリア語(2) 101

Italian(2)

本科目は原則イタリア語(1)を履修済みの学習者を対象とする。発音を含む基礎文法の知識をさらに深めることで、より実践的な水準に到達することを目的とする。一般会話における言い回しや表現を身に付けることに限らず、幅広い話題において比較的簡単な文の発話や筆記が出来るようになることを目指す。授業では歴史や社会、文化などイタリア語に関する背景知識を扱いながら、ある程度まとまった文章の読解活動も行う。授業においては適時、必要に応じて発音練習や文法事項の解説、語彙の確認を行う。

### 中国語(1) 102

Chinese(1)

本科目は中国語初級者向けの授業である。基本的な語法を学ぶとともに、発音の練習に重点を置き、中国語独特の音声構造が体に染み込むまで徹底的に訓練すると共に、長い歴史に培われてきた中華文明のエッセンスもあわせて紹介する。中国語のローマ字表記が間違いなく発音できるようになること、簡単な中国語を聴き取り、声調(tone)を判断し、なおかつローマ字で表記できることを目指す。簡単な会話や自己紹介も臆さずできる心持ちも育みたい。

### 中国語(2) 103

Chinese(2)

本科目は原則中国語(1)を履修済みの学習者を対象とし、そこで学んだ事柄を土台にして中国語の基礎を確立する。発音の反復練習を続けながら、より複雑な語法と表現に踏み込み、短文読解を通して中国語独特のロジックを体感することで、今後とも継続して自学自習できる素地を固めていく。より実践的な会話練習も行いながら、「中国問題」と呼ばれる事象も取り上げ、現代中国の実状にもアプローチする。中国語の簡単な読み書きとリスニングができるレベル、具体的には中国語検定4級以上を目指す。

### アラビア語(1) 104

Arabic(1)

本科目はアラビア語初級者向けの授業である。基本的事項としてアラビア語文字といくつかの定型表現への理科を深め、挨拶や日常生活で身近な会話表現や言い回

しを学習する。基礎的なアラビア語の発音や規則を理解し、初歩的な文法を使って日常生活に必要な表現や文が運用できることを目標とする。またアラビア語母語話者の文化や生活習慣について学び、アラブ・イスラム文化についての理解を深める。基本は演習形式で進め、ロールプレイなどを用いて日常生活でよく使われる平易な表現を会得できるよう発話を中心にした活動も行う。

## アラビア語(2) 105

Arabic(2)

本科目は原則アラビア語(1)を履修済みの学習者を対象とする。基礎的なアラビア語の文法や語彙を復習し、挨拶や簡単な会話内容に限らず、より幅広い場面でのコミュニケーションが行える力を養う。アラビア語の基礎的な文法事項・単語の定着を目標とするほか、アラビア語圏諸国の歴史や社会、文化背景について理解を深めることも目指す。授業では、ある程度まとまった文の読解活動や、身近な話題に関する表現や質疑応答を伴う発話活動などを中心に行う。

## 韓国語(1) 106

Korean(1)

本科目は韓国語初級者向けの授業である。韓国語の文字や発音、初歩的規則を学習し、中級以降へ進むための基底能力を付ける。韓国語文字(ハングル)を定着させ、基本語彙、初歩的文法を習得しながら、日常生活における基本的表現の会得を目指す。授業では辞書の使い方から始まり、発音練習、会話表現の言い回し、読み書きを含む演習を中心に活動する。こうした韓国語の学習を基盤に、韓国の文化、歴史や、韓国人の価値観等も考察し、韓国語・韓国文化への理解を深めていく。

## 韓国語(2) 107

Korean(2)

本科目は原則韓国語(1)を履修済みの学習者を対象とする。既習の韓国語の文型、語彙、表現を基礎に、新しい表現を徐々に加え、目、口、耳を使った総合的な訓練を繰り返す。韓国の歴史や社会、文化背景など幅広い話題に注目しながら、平易な内容の読解活動などを通じて、韓国語能力試験初級以上の取得にも対応できるようにする。授業は基本的に演習形式で、基本的表現の練習や自己表現、相手への質疑応答などを含む発話活動を行う。日常会話に必要な豊富な語彙を習得していきと共に、豊かな表現力を身につけていく事を目標とする。この授業では、韓国語能力試験初級合格も目指したい。

## 日本語表現 108

Advanced Japanese

本科目は本学で学ぶ留学生に向けた日本語科目である。一定の日本語力を保持しながらも、より高い運用能力の構築や日本に関する知識・教養に興味のある留学生を対象とする。日本語特有の複雑な会話構造や文法、言語に関する態度や規律等、日本語の使用に目を向けた様々な授業活動を行う。また、ペアワークやディスカッション等を活用し、授業内外問わず能動的に日本語が使用できる環境を提供する。日本語能力試験に耐えうる力の育成や、日本における文化背景や社会情勢等に理解を深めることを目指す。

## 体育科目

### 人間と健康 109

Human Life and Health Care

人間を身体的、精神的、社会的な側面から捉え、人間にとって「健康とは何か」を探究することが、QOL(Quality of Life) ; 「生活の質」を向上させるために重要である。様々な側面から健康とは何かを探究し、自己の生活スタイルをみつめなおし、自分の健康を的確に把握できる能力を養う。さらに、自己のダイエット行動や運動習慣を見直し、各ライフステージに応じた健康づくりのための、栄養・運動・休養を基礎とした適切な生活スタイルを確立する能力を養う。また、保育に携わる者は、将来、子どもを持つ親(特に母親)をサポートする立場になり、女性のライフサイクルについて学ぶことは必須であり、女性特有のライフサイクルと健康についても学ぶ。

### 健康と運動(1) 110

Health and Sport(1)

運動・スポーツの基礎的な技能、知識、態度を学ぶ。身体能力や運動経験にかかわらず、積極的に各種スポーツに取り組むことによって、運動の楽しさや運動が心身の健康に及ぼす効果を再確認し、生涯スポーツを展望できる素養を身につける。

さらに様々なスポーツ・運動種目の体験を通して、チームワークやリーダーシップ等のコミュニケーション能力を養う。

なお、「健康と運動(1)」では主に球技種目を取り上げる。

### 健康と運動(2) 111

Health and Sport(2)

運動・スポーツの基礎的な技能、知識、態度を学ぶ。自己の身体能力や運動経験にかかわらず、積極的に各種スポーツに取り組むことによって、運動の楽しさや運動が心身の健康に及ぼす様々な効果を再確認し、生涯のス

ポーツ生活を展望できる素養を身につけ、心身の健康の保持増進と基礎的体力の向上を図る。さらに様々なスポーツ・運動種目の体験を通して、チームワークやリーダーシップ等のコミュニケーション能力を養うと同時に指導的立場でのゲーム展開や基礎練習の進め方にも触れる。なお、「健康と運動(2)」ではマット運動や身体表現・ダンスなど、子どもの運動遊びの指導・援助に必要な基礎技能を修得する。

## 専門科目

### 保育原理

112

Principles of Early Childhood Care and Education

この授業は、保育という営みについて幅広い観点から学びを深め、保育者の専門性の根幹をなす基礎的な素養を身につけることを目的とする。特に(1)保育をめぐる今日的状況をはじめ、(2)保育に関わる法律や制度、(3)児童福祉と保育の理念、(4)保育の具体的な内容や方法、(5)保育の歴史・思想、(6)保育者の専門性、(7)保護者支援と子育て支援、(8)特別な配慮を必要とする子どもと保護者への対応、といった内容に関わる基礎的な知識を習得する。

### 教育原理

113

Principles of Education

「教育」とは何か。「教えること」、「学ぶこと」、「育つこと」はどのように結びついているのか。教師や保育者の「専門性」とは何か。これらの疑問に対する答えは、教育に関わる幅広い知識と、深い思索の中で一人一人が見出していくものである。この講義では「教育」という営みについて一人一人が考えを深めていくための基礎的知識を、歴史的・思想的側面と、実践的側面との双方から習得することを目指す。

### 教育社会学

114

Sociology of Education

教育のあり方は、人々の日常生活と深く結びついた社会や制度のあり方と密接に結びついている。この授業では、現代の教育や子どもをめぐる状況を「社会」と「制度」という二つの側面から学ぶことを目的とする。例えば、1)階層と教育、2)マイノリティと教育、3)就学前の教育、4)非行/逸脱、不登校やいじめと教育、5)学歴社会と教育、6)グローバル化と教育、7)労働市場へのトランジション、8)現代の教育改革の動向、といったテーマに触れながら、教育と社会との結び目に存在する様々な「常識」に、多角的な視点から考察を加えていく力を身につける。

### 子ども家庭福祉

115

Child and Family Welfare

現代社会における子ども家庭福祉の意義や歴史の変遷、子どもの権利条約を中心とした子どもの人権擁護について理解する。また、子ども家庭福祉における制度やその実施体系など、今日の動向、課題と展望について学ぶ。

### 社会福祉

116

Social Welfare

現代社会の変化とともに、離婚、児童虐待、リストラ、高齢者介護、貧困など、多様な問題が顕在化し、福祉の重要性が社会的に浸透されてきている。本講義では、社会福祉の各領域を概観しながら、社会福祉の意義、歴史の変遷、制度・政策、相談援助、社会福祉の動向と課題等について幅広く学び、理解を深める。また、適宜、社会福祉活動の実践事例などを活用しながら授業を進める。

### 社会的養護(1)

117

Nursing and Care in Society(1)

現代社会における社会的養護の意義や歴史の変遷、養護の対象、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。また、社会的養護の制度や実施体系等の現状や課題、関係する専門職等について理解する。

### 保育者論

118

Theories and Techniques for Kindergarten and Nursery School Teachers

より良い教育・保育実践を実現するためには、保育者の本質を理解するとともに豊かな人格形成及び資質向上を目指した不断の取り組みが必要である。

この授業では、幼稚園教諭、保育士、保育教諭など教育・保育者について、その法的根拠や制度的位置付けのみならず、職務内容や責務、倫理、専門性など多角的な視点から考察し、今日望まれている保育者像について学んでいく。また、多様化する今日的課題への解決に向けて、多職種連携のあり方や保育者間の協働等、チームアプローチの方法論について具体的なイメージを確立しながら学んでいくと同時に実践力を培っていく。

### 発達心理学(1)

119

Developmental Psychology(1)

発達心理学は生涯にわたる発達をとらえる学問である。保育者は一人ひとりの子どもの発達を的確にとらえることが必要である。本授業では、人間の受精・誕生、死までの発達過程を理解することを目的とし、胎児期から老年期までの一生涯を「発達のみる」という視点を養う。また、履修者のほとんどが保育者をめざしている

ことから、乳幼児期の理解に時間を多くとっている。そして、実践につながる発達理解ができるよう視聴覚教材や事例なども取り入れながら子どもの発達を的確にとらえる力を養成すると同時に、発達にそった適切な援助・支援ができるよう指導する。さらに、学生自身のこれまでの発達を振り返り、将来、保育者として、あるいは、親としての成長の過程を見通すことができるよう援助していく。なお、保育士養成課程カリキュラムの改正に伴い、「保育の心理学Ⅰ」の教科書を用い、保育実践とも深く関連づけながら理解できるよう展開していく。

## 教育心理学

120

Educational Psychology

教育心理学の基本的な事項を理解し、保育や教育への具体的な実践へとつなげる。さらに、生涯発達の観点から幼児期から青年期までの発達に応じた保育と教育のあり方について学ぶ。特に、幼稚園・保育園期の子どもは生活や遊びを通してさまざまなことを学習し、それが生涯にわたる学習を支える基盤となる。乳幼児期の生活や遊びを通しての学習の重要性、およびその学習の過程について十分に理解を深める。また、最近教育・保育現場で課題となっている特別な支援を必要とする子どもについても具体的な事例をもとに考えていく。

## 子ども家庭支援の心理学

121

生涯発達に関する心理学の基礎的知識、初期経験の重要性、乳幼児期から老年期に至るまでの発達過程および発達課題等の知識を習得し、理解する。また、家族や家庭の意義、その機能を理解し、親子関係や家族関係等について近年の子育てをめぐる社会的状況と課題への理解を深めるとともに子どもと多様な家庭を包括的に捉える視点を習得する。子どもの生活・生育環境とのその影響、子どもの心の健康に関わる問題についても考察する。

## 子ども理解の理論と方法

122

乳幼児期・児童期の子どもの心理とその発達、集団の中での関係性などを理解するための実践的な方法論を習得しながら、子どもについての理解を深める。同時に、将来、保育者あるいは親として子どもの気持ちや関係性等の適切な読み取り・判断・援助ができる知識と実践力が身につくよう指導する。心理学研究には様々な方法があり、本授業では、特に、保育者に大切な子どもの心理や発達を的確にとらえる目を養うことに通じる観察法を中心に、観察演習を取り入れながら、方法、記録のとり方、観察からの考察、研究における倫理、聞く技法等について学ぶ。また、実習における参与観察をふまえ、

フィールドでの参与の度合、観察記録時の留意点等についてもふれる。面接法や質問紙調査の技法についても理解を深め、技法が習得できるようにする。

## 子どもの保健と健康

123

Child Health and Wellness

子どもの健康の概念と意義、発達の特徴、怪我や病気の予防について、小児保健統計や視聴覚教材を使用し、専門的事項の知識を身に付ける。

乳幼児期の基本的な生活習慣の形成とその意義や安全教育・安全管理について、また、幼児期において多様な動きの獲得の意義や日常生活における身体活動の在り方について具体例に触れ、アクティブ・ラーニングの手法も取り入れながら、理解を深める。

## 子どもの安全と健康

124

Child Health and Safety

ガイドライン等に基づき、保育の環境や援助、保育衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策、体調不良対応、感染症対策、子どもの発達、子どもの健康及び安全の管理に関わる計画・評価等を具体的に理解する。

## 子どもの食と栄養

125

Child Nutrition and Food

食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得し、子どもの発育・発達と食生活の関連、食育、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

## 子ども家庭支援論

126

Family Support

現代の子育て家庭に対する支援の意義や目的、家庭への支援体制の現状や課題について理解する。また、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義、家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。

## 保育の計画と評価

127

Planning and Assessment in Nursery Care

この授業では「保育所保育指針」に示される保育所保育における養護及び教育の基本原則を深く理解するとともに、「保育の計画と評価」に関する基礎的な知識・技能を身につけることを目的とする。特に、1) 乳児の保育、2) 1歳以上3歳未満児の保育、3) 3歳以上児の保育における「ねらい」と「内容」の違いを理解し、子どもの発達の流れに沿った「保育の計画と評価」を行うための基礎的な技能を習得する。また、保育所における子どもの健康支援や、食育の推進、衛生・安全管理、子育て支

援、職員の資質向上のあり方についての基礎的な知識を身につける。

### カリキュラム論

128

#### Theory of Curriculum

この授業ではカリキュラムについて大きく二つの側面から学ぶ。一つ目の側面は、行政が告示する「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示される教育や保育の目的・内容に関わるものである。二つ目の側面は、それぞれの保育・教育機関において、保育者と子どもが日々の生活を通してともに作り上げていく「学びの履歴」として表現できるものである。保育や教育の現場は、こうしたカリキュラムの二つの側面の間で日々の実践や生活を創っていくことになる。以上のことをふまえて授業の最終課題では保育士・幼稚園教諭がデザインする学びの履歴という観点から、1日の保育計画を作成する。

### 保育内容総論

129

#### Early Childhood Care and Education

保育内容(5領域)とはどのようなものであるかをまず理解する。さらに、保育内容は園生活全体を通して総合的に展開されていくものであるという考え方を理解した上で、望ましい環境を構成する方法や、身近な素材を遊びの教材として生かす方法、指導を実践するために必要な知識・技術を身に付ける。自然素材、児童文化財、身近なものを生かした遊びの中でどのような経験をしているかについて、具体的な子どもの姿と関連付けながら学び、5領域のねらい及び内容との繋がりを確認し、遊びを通して育つとはどのようなことかを理解する。

### 保育内容健康指導法

130

#### Early Childhood Care and Education: Health

領域「健康」は「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指すものである。幼児教育・保育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「健康」のねらい及び内容について背景にある専門領域と関連させ、理解を深め、子どもの発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。なお「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」として掲げられた10の項目を考慮し、指導できる力を身に付ける。

### 保育内容人間関係指導法

131

#### Early Childhood Care and Education: Human Relationships

領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わり力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想し実践する方法を身につけることを目指す。

### 保育内容環境指導法

132

#### Early Childhood Care and Education: Environment

子どもと環境をつなぐ保育者の役割について学ぶ。まずは、地球環境の変貌と人間の生活とのあり方との関係についての理解を図り、より良い環境をととのえるために必要なことを学ぶ。そこから、子どものためのより良い環境のあり方を理解し、改めて保育者の役割を考える。

### 保育内容言葉指導法

133

#### Early Childhood Care and Education: Language

子どもの言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、保育内容言葉のねらいおよび内容についての理解を深める。その上で、発達に即した、主体的・対話的で深い学びの実現に配慮しつつ、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。保育内容言葉の背景となる専門領域との関連を意識しつつ授業を展開する

### 保育内容表現指導法

134

#### Early Childhood Care and Education: Expression

保育所・幼稚園において、保育の目標を達成するために、子どもの状況に応じて保育者が適切に行うべき基礎的な事項及び保育者が援助する事項について、子どもの発達を踏まえながら、特に感性と表現に関する領域について学ぶ。さまざまな表現活動を通して、表現者としての保育者の素養を身につける。そして、子どもが表現したいという意欲を育てるための援助と指導について考える。

### 乳児保育(1)

135

#### Infant Care and Education (1)

乳幼児(主に3歳未満児)の発達を理解し、保育者として子どもが心身ともに豊かに育つためにどのような援助が考えられるのかを検討していく。保育者としての必要な理論、技術、知識を理解するだけでなく、子どもの生命の尊さ、命を育むことの意義を考え、保育の実

実践力を身につけることを目標とする。

## 乳児保育(2)

136

### Infant Care and Education (2)

乳児保育(1)で学んだことをさらに深め、3歳未満児の発達と保育について、具体的な実践事例を通して理解する。一人ひとりの発達の過程に応じた援助、具体的な人的・物的環境作りに必要な知識・技術を習得する。様々な演習を行い、実際の保育の在り方を体感する。

## 特別な配慮を必要とする子どもの理解と

### 支援

137

### Understanding and support of children in need of special care

障害には様々な種類があり、実際の教育・保育の場面においてはそれぞれの障害に応じた関わりや指導が必要であるとともに、インクルーシブ教育に基づいた理念の具現化が重要である。この科目では、障害全般について学習するだけでなく、アセスメントの仕方やそれぞれの特性に応じた具体的な支援の方法などを具体的に学ぶ。また、障害児保育では個別のアプローチの必要性が高いことから、個別支援計画の作成方法についても理解を深めていく。さらに、実践の場面を想定して、外国籍の子ども、経済的貧困等、特別な教育ニーズのある子どもの理解と支援についても学び、特に多くの保育現場において対応に苦慮している自閉症スペクトラム障害については、詳細に検討を行う。

## 社会的養護(2)

138

### Practical Nursing and Care in Society

社会的養護における児童の権利擁護や保育者の責務を学ぶとともに、施設養護、家庭養護の実際について理解する。また、児童虐待防止と家庭支援のあり方を考察し、家庭支援の具体的な実践方法として、アセスメント、支援計画の立案、記録、評価についても学び、相談援助技術の基礎を身につける。

さらに福祉現場における実践力を培うため、虐待等の事例研究、ディスカッションによる課題整理、ロールプレイングによる共感性の獲得トレーニングなどを積極的に取り入れていく。

## 子育て支援

139

### Special Skills in Family Counseling

相談援助における基本的技能や知識を理解し、保護者に対する相談、助言、情報提供等、支援の方法や展開について理解を深める。また、子育て支援の実際について、保護者の成育歴や背景、家族環境等、様々な状況に応じた支援方法及び技術の習得について、事例検討やロール

プレイング、模擬ケースワーク・グループワークなどを行い、保育相談支援におけるより確かな実践力を身につけていく。特に、保護者のエンパワメントを目指した支援のあり方についても理解を深め、ファシリテーションなど、現在多くの子育て支援の現場で取り組まれている様々な子育て支援の手法についても考察を深めていく。

## 保育の内容の理解と方法(音楽表現)

140

### Expressions in Music

保育実践における子どもの音楽的表現場面、表現を支えるために保育者に求められる弾き歌いや歌唱の表現技術を習得させるための実技指導、及びさまざまな音楽的な教材を体験させ、その魅力を理解させるための指導を行う。子どもの歌や手遊び、わらべうた遊び、合奏曲等についてその魅力と構造を実践的に学ぶとともに、保育実践におけるそれぞれの展開場面の映像を見ながら、保育実践を想定した教材理解を深める。

## 保育内容の理解と方法(造形表現)

141

### Expressions in Arts and Crafts(1)

子どもの表現する姿や、発達と表現との関係を理解するための専門的な知識、技能や表現力を身につける。特に領域「表現」における造形表現の基盤となる知識、技能を学ぶことを通して、子どもの豊かな表現を支えるための感性を養う。

具体的な内容として、様々な素材・用具・技法を用いながら、体験を通して学んでいく。

## 保育内容の理解と方法(身体表現)

142

### Expressions in Movement Activities

全身を使って遊ぶ運動遊びや身体表現遊びは身体的、精神的、社会的発達に深く意義が認められていることを理解し、様々な運動遊び及び身体表現遊びを体験し、身体表現の基礎的な知識・技能を学ぶ。さらに、子どもの素朴な表現に寄り添い、表現を支えるための感性を豊かにするとともに、将来保育者として生き生きと動ける身体を獲得する。

## 保育内容の理解と方法(言語表現)

143

### Expressions in Language

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された幼児教育の基本を踏まえ、「表現」領域のねらい及び内容を理解し、表現領域における具体的な言語表現の援助・指導場面を想定し、保育を構想する具体的方法についてアクティビティを通して学ぶ。

**保育実習(1) (保育所・施設)**

144

Practical Training for Children in Nursery and Welfare Institution(1)

保育所、保育所以外の児童福祉施設等での実習を通して、子ども理解や保育士の業務内容、職業倫理、子どもの最善の利益の具体化について理解する。また、既習の教科内容を基礎とし、子どもや保護者への支援等についても総合的に学び、実践力を培う。保育実習指導(1)の(保育所)および(施設)で主に事前指導、事後指導を行うので、保育実習指導(1)の(保育所)および(施設)の授業とは連動する。実習は、保育所で90時間以上、そのほかの児童福祉施設において90時間以上を実施する、実習巡回指導では、各施設の理念や地域活動への配慮を聴取しながら、学生の実習状況を把握し指導にあたる。

**保育実習指導(1) (保育所)**

145

Practical Training in Nursery(1)

保育実習(1)保育所が円滑に進められるよう、保育実習の意義や目的を理解し、保育実習(1)aに必要な知識、技術だけでなく、実習生としてのふさわしい立ち居振る舞い、身だしなみも習得する。事前指導として、学習の目標を明確化し、実習に臨む心構え、倫理綱領、保育所保育指針などを理解するとともに、観察の方法、記録の方法、実践に必要な保育実技などを習得する。事後指導として、実習の総括および自己評価を行い、今後の学習目標や課題を明確化する。

**保育実習指導(1) (施設)**

146

Practical Training in Welfare Institutions(1)

保育実習指導(1)(施設)＜保育所以外の施設実習に関する指導＞

保育実習(1)(施設)が円滑に進められるよう、保育実習の意義や目的を理解し、保育実習(1)(施設)に必要な知識、技術だけでなく、実習生としてのふさわしい態度や取り組み姿勢を習得する。事前指導として、学習の目標を明確化し、実習に臨む心構え、実習を行う施設の概要、虐待や障がい等を有する特別な配慮を必要とする子どもたちについて理解するとともに、観察の方法、記録の方法、実践に必要な保育実技などを習得する。事後指導として、実習の総括および自己評価を行い、今後の学習目標や課題を明確化する。

**保育実習(2) (保育所)**

147

Practical Training for Children in Nursery(2)

保育実習(1)並びに保育実習指導(1)を履修し、さらに理論的学習を積み上げた学生が保育士資格取得の最終仕上げとして保育所で行う選択必修科目である。実習内容は責任実習を含み、責任実習指導案を作成し実際

の養護・教育を体験し現場の園長や保育士から指導、評価を頂く中で、子ども理解、保育士としての知識、技術、役割について理解を深め、現場での実践力を培うことを目的とする。保育実習指導(2)において事前指導、事後指導を行うので、保育実習指導(2)の授業とは連動する。実習は90時間以上を実施する。実習巡回指導では、各園の理念や保育の実情を聴取しながら、学生の実習状況を把握し指導にあたる。

**保育実習指導(2) (保育所)**

148

Practical Training in Nursery(2)

保育実習(2)(通所施設としての保育所)保育実習(3)(入所施設を主体とするその他の児童福祉施設)が円滑に進めるために、保育所または施設のどちらかを選択し、子ども理解、保育士としての知識、技術、社会的役割について習得する選択必修科目である。保育所または福祉施設において、子どもの最善の利益を守るためにどのように専門的実践が行われているのかを学び、実習のみならず社会人として現場で働くことの厳しさ、喜びを体験し、現場で通用する保育実践力を習得する。

保育所実習(2)を選択した者の事前指導は、保育実習(1)保育実習で学んだことを生かしながら、積極的に様々な保育の形態に関わりを持ち可能な範囲で責任を持ち実習を体験するために、実践的な養護・教育の指導技術を高め、多様な保育ニーズについての具体的な保育の実際を具体的な実践例から学ぶ。事後指導では実習の評価、実習発表会、自己評価、今後の課題、目標を明確化する。

**保育実習(3) (施設)**

149

Practical Training for Children in Welfare Institution(3)

保育実習(1)並びに保育実習指導(施設)を履修し、さらに理論的学習を積み上げた学生が保育士資格取得の最終仕上げとして、入所施設を主体とするその他の児童福祉施設等で行う選択必修科目である。

実習内容は保育実習(1)で行った、特別な配慮を必要としている利用児(者)に対するの援助を基本として取り組む。さらに今回実習を行う施設において、実際の養護・保育・福祉を体験し、現場の施設長や保育士・その他の専門職から指導、評価を頂く中で、子ども理解、保育士としての知識・技術・役割について理解を深め、現場での実践力を培うことを目的とする。実習は90時間以上を実施する。実習巡回指導では、各施設の理念や保育の実情を聴取しながら、学生の実習状況を把握し指導にあたる。

**保育実習指導(3) (施設)**

150

Practical Training in Welfare Institution(3)

保育所または施設のどちらかを選択し、育実習(3)(入所施設を主体とするその他の児童福祉施設)を円滑に進めるために、子ども理解、保育士としての知識、技術、社会的役割について習得する選択必修科目である。保育所または福祉施設において、子どもの最善の利益を守るためにどのように専門的実践が行われているのかを学び、実習のみならず社会人として現場で働くことの厳しさ、喜びを体験し、現場で通用する保育実践力を習得する。

施設実習(3)を選択した者の事前指導は、保育実習(1)で学んだことを生かしながら、積極的に様々な形態の施設に関わりを持ち、その機能と特性、社会的役割を学習する。また、社会福祉施設従事者としての実践的な支援技術を高め、多様な福祉ニーズに応えるための具体的な支援の実際を具体的な実践例から学ぶ。事後指導では個別面接を行い実習の評価、実習報告、自己評価、今後の課題、目標を明確化する。

**保育・教職実践演習(幼稚園)**

151

Practical Seminar for Child Care and Education

保育・教職実践に関わる4年間の学びを総合的に意味づけ、身につけた知識や技能を保育の現場において柔軟に活用できるよう、最終的な整理と確認を行うことを目的とする授業である。この科目の履修を通して、将来、保育者として勤めるにあたって、今現在の自身の課題が何であるのかを見つめ直し、不足する知識や技能等を補い、その定着を図ることに注力することによって保育者としての生活をよりスムーズにスタートできるようにすることを目指す。言わば、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づけられる資格必修科目である。

**発達心理学(2)**

152

Developmental Psychology(2)

発達心理学(1)をふまえて、主に乳児期、幼児期にわたる発達について理解を深める。保育者の子どもに対する理解のあり方は、子どもの発達に大きな影響を与えるものである。したがって、本授業を通して、子どもの発達を正しくとらえ、子どもの心がどのような状態にあるのかを理解し、保育者として適切な援助ができる力を養成していく。また、乳幼児の日常生活の中から得られる具体的なエピソードを、発達心理学的に分析する練習を通して、子どもを観察する視点を養っていく。さらに、乳幼児期の経験の重要性を知り、保育者と子どもとの関係、保護者と子どもとの関係についても探究していく。

**臨床心理学**

153

Clinical Psychology

保育者に必要な臨床心理学の知識を学ぶとともに、子どもの発達を臨床心理学的にとらえるとはどういうことなのかについて考えていく。また、子どもの発達を客観的に把握する手段としての発達検査、スクリーニングテストについての理解を深める。その中で、発達全体をスクリーニングする質問紙検査、子どもの描画から発達を把握する検査、子どもの社会的認知発達をスクリーニングする検査などを紹介する予定である。さらに、子どもに関わる仕事に携わる者は、自己理解を深め、自己受容をしておくことが大切である。「自分を知り、他者を知る」ことを目的として、心理テストなどを用いて自己理解を深める。

**音楽実技入門**

154

Music Skills for Beginners

ピアノ実技初心者、初級者を対象に、楽譜の読み方、ピアノの弾き方、発声法について学習し、保育士資格取得のための必修科目である音楽実技(1)を履修するために必要な基礎技能を習得する。クラス授業では、楽譜が読めるようになるために、五線譜、音部記号、音符、休符、拍子記号等の楽譜の規則(楽典)についての説明と覚えるための練習を行う。レッスンでは、ピアノ実技と簡単な子どもの歌の弾き歌いを行う。

**音楽実技(1)**

155

Music Skills(1)

保育士資格を取得するための必修科目であり、保育実践において保育者が子どもと一緒に歌ったり、踊ったりすることを楽しむ活動を展開する際の教材について実践的に学び、教材を展開するために必要となるピアノ演奏技術、歌唱表現技術のうち基礎的なものをクラス授業と個人レッスンによって習得する。クラス授業では、五線譜、音部記号、音符、休符、拍子記号等の楽譜の規則(楽典)の理解をより確実にし、読譜力を向上させる。レッスンでは、ピアノ実技と簡単な子どもの歌の弾き歌いを行う。

**音楽実技(2)**

156

Music Skills(2)

保育実践における音楽教材の構造と特徴を実践的に理解するとともに、音楽実技(1)で習得した基礎的知識や読譜能力、演奏技術を高め、教材の展開において子どもの表現に対する援助者として求められる演奏表現技術を習得する。アンサンブルを経験し、音楽の共同性の楽しさと意義を実感する。具体的には、既習の楽典知識を復習することによる知識の定着と、調子記号の習得に

よって楽譜の理解をより深める。また、連弾によって他者と共同して音楽を創り出す楽しみを体験することによって、音楽パフォーマンスの共同的側面を学ぶ。

## 造形

157

## Expressions in Arts and Crafts(2)

保育実践において、保育者が子どもの遊びを豊かに展開するために求められる知識や技術について、実践的に学ぶ。ここでは特に、子どもの発達段階や経験と、表現活動や造形表現との関連について理解し、保育実践における環境構成の在り方についても具体的に学ぶ。

基礎的表現技術を確認しつつ、応用に結びつける意味で「自己紹介カード」や保育環境に関する「壁面制作」や導入教材「パネルシアター」などの制作に取り組む。その際、簡単な「指導案」も作成し、お互いの発表を通して「導入」の工夫や方法についてまとめていく。

## 児童文化

158

## Children's Culture(1)

子どもを取り巻くさまざまな文化について学ぶ。児童文化史を概観することによって基礎的な知識を習得するとともに、子育て習俗等の伝承文化や現代の子どもの生活文化や遊びについて、また、さまざまな児童文化財等について検討し、考察を深める。

## 子どもと昔話

159

## Folktales

家庭や保育現場で、子どもに語られてきた昔話には私たち現代人へのどのようなメッセージが含まれるのか。絵本や紙芝居に取り上げられている身近な昔話を例に、昔話のテーマやメッセージを理解した上で、基本的知識を習得し、保育者が子どもに昔話を伝える際の留意点と子どもに昔話を伝えることの重要性を学ぶ。

子どもにとって昔話がどのような意味を持つのか深く理解し、最終的に受講生自身が保育者として子どもと昔話を繋ぐ役割を担当する展望が持てるよう専門性を高める。

## 手話

160

## Sign Language

手話の基礎を学び、手話コミュニケーションを体験する。ろう児や難聴児とのコミュニケーションにおける手話の役割を知り、ろう者やろう文化に対する認識を深める。また、手話の文法を知ることで、ろう者の「ことば」に対する理解、認識を確かなものとする。さらに、手話を習得することで自らの表現を豊かにし、コミュニケーションにおける身体的役割について再確認する。

## 子どもと人間関係

161

## Children's Life and Play

乳幼児期は、人と関わり合って生活していく土台を築く時期であり、子どもが人への信頼と関心を深めていけるよう、保育者のかかわりや配慮が重要な役割を持ちます。乳幼児期の人間関係の発達の特質を踏まえた上で、領域「人間関係」の内容に関わる幼児の育ちを支える保育者の資質について、専門的な知識を身につけることを目標とする。

1. 乳幼児期の教育・保育の内容的・方法的特質を理解する。
2. 乳幼児期の人間関係の発達を理解する。
3. 幼児を取り巻く人間関係の現代的課題を理解する。

## 子どもと言葉

162

## Studies in Children's Literature

領域「言葉」の指導の基盤となる、子どもが豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。

1. 言葉の発達過程を踏まえ、映像資料や事例を通して、子どもがどのように言葉の意義と機能を理解しているか学ぶ。
2. 子どもにとっての言葉の意義や機能、文字の意義や機能について、映像資料や事例を通して学ぶ。
3. しりとりやなぞなぞ、回文等、言葉遊びを体験すると共に、言葉遊びを含む絵本等を読み、言葉や文学表現に対する感覚を豊かにする実践、言葉遊びと子どもの言葉の発達の関連性について学ぶ。
4. 絵本・幼年童話・紙芝居などの児童文化財に描かれた子どもの姿を考察すると共に、それら児童文化財の子どもにとっての意義を学ぶ。
5. 読書や児童文化財の実践を通して、その楽しさを体験的に理解し、保育への取り入れ方を考察する。

## 教育学概論

163

## Introduction to Pedagogy

教育という営みを、私たちの成長や発達、生活のあらゆる側面と関係を持つ現象として多角的に理解するための観点を学ぶ。「教育とは何か?」、また「教育とはどうあるべきか?」という問いに対する唯一普遍の正解というものはない。これらの疑問に対する答えは、教育や成長についての幅広い知識と、深い思索の中で一人一人が見出していくものである。この授業では教育という営みに関わるいくつかのテーマを取り上げ、それをもとに議論をすすめる。提示されたテーマについて自らの経験を振り返って考えたり、簡単には応え難い問題を考えたりすることを通して、一人一人の教育や成長についての考え方を柔軟で、豊かなものにしていくことを目指す。

**子どもの造形表現指導法**

164

Teaching Methods: Art Expression

幼児教育・保育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領や保育所保育指針に示された領域「表現」のねらい及び内容と造形表現について、背景にある専門領域と関連させ、理解を深め、子どもの発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身に付ける。また「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」として掲げられた10項目を考慮し、指導できる力を身に付ける。

具体的には幼児が発達段階において造形表現の中で学ぶ大切な事と、指導者の幼児表現活動への関わり方について、模擬授業を通して考え取り組んでいく。各自オリジナルなテーマを持った造形指導計画案を立案し、班単位でまとめ、模擬授業を実施し、相互評価を行う。

**子どもの身体表現指導法**

165

Teaching Methods: Physical Expression

言葉が未発達な乳幼児期において、身体表現は重要なコミュニケーション手段であることを理解し子どもの身体表現を読み取り、共感できる能力を養う。子どもの自発的な身体表現の可能性を開き、身体表現力を豊かにするための適切な指導・援助について学ぶ。幼児の身体表現の発達や学びの過程を理解し、幼児の主体的で対話的な深い学びを引き出すための具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

具体的な授業の進め方として、ひとつのテーマで2回完結とする。1回目は受講生が活動者となって参加する。2回目は受講生の中から指導者役、幼児役、観察者役にわかれ、模擬保育を実施し、活動終了後はそれぞれの立場から振り返り意見交換する。

**子どもの音楽表現指導法**

166

Teaching Methods: Music Expression

手遊び、わらべうた遊び等の遊び歌、楽器や身の回りの物を使って行うアンサンブルについて、その保育実践映像を見せながら、子どもの表現の読み取り、読み取りに基づいた援助、指導法の考察をグループワークによって行う。

保育士あるいは幼稚園教諭として必要な幼児音楽教育理念、指導法、教材研究等について実践を通して学ばせる。子どもの音楽表現が、子どもと大人との相互コミュニケーションの中でどのように生起し、展開するかということについて構造的に理解させ、子どもの豊かな音楽表現の生成を促すために、保育者が如何に関わりうるか、ということについて、実践とVTR視聴を通して考えさせる。

**幼児教育方法論**

167

Kindergarten Education Methodology

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

1. これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解している。
2. 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付けている。
3. 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付けている。

**教育相談**

168

School Counseling

教育相談を行う上で必要な発達理論、子どもの理解の方法及び保護者への関わり方について、実践や事例研究を通して具体的に学ぶ。近年、教育・保育の現場において、「気になる子ども」に関する相談が多くなってきている。対応が上手く行われない場合、保護者も現場の担当者も子ども自身も困惑し、その子どもの発達に影響をおよぼすばかりでなく他の子ども達にも混乱が広がっている場合も少なくない。この現状を踏まえて、子どもや保護者への支援としての教育相談活動の意味について考え、子どもの状態像を把握する方法や、子どもや保護者への関わり方、教育相談を行う者の義務と責任、関係諸機関への連携について学ぶ。幼児期の教育相談だけでなく、生涯にわたって支援する視点とは何かについても考えていきたい。

**幼稚園教育実習(1)**

169

Practical Training in Kindergarten(1)

2年次の終わりに行う5日間の幼稚園教育実習(観察)である。観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員となる上での能力や適性を考えるとともに課題を自覚する。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。

**幼稚園教育実習指導(1)**

170

Guidance for Practical Training in Kindergarten(1)

幼稚園教育の現場で実習することを想定し、①幼稚園教諭の仕事内容とその意味、②子どもたちの姿を理解す

るための観察方法, ③子どもたちとのかかわりの方法を学ぶ。その学びを基に, 実習日誌に的確に記述する方法とその意味を理解する。さらに, 指導計画の実際について事例から学び, 実習を想定して自ら指導計画を作成する。以上のことを通して幼稚園教諭の仕事, 幼稚園在園児, 幼稚園教育の役割を理解する。

### 幼稚園教育実習(2) 171

#### Practical Training in Kindergarten(2)

3年次の終わりに行う15日間の幼稚園教育実習(責任)である。観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して, 教育者としての愛情と使命感を深め, 将来教員となる上での能力や適性を考えるとともに課題を自覚する。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み, 学校教育の実際を体験的・総合的に理解し, 教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。

### 幼稚園教育実習指導(2) 172

#### Guidance for Practical Training in Kindergarten(2)

3年次終了時に実施される「幼稚園教育実習(2)」(3週間)のための事前・事後指導を行う。それぞれの課題について, 学生が主体的に学ぶ姿勢を育てることを通して, 幼稚園教諭としての基本的な構え, 技能を身に付けることを目的とする。そのため, 授業内容はできるだけ具体的であり, それぞれの学生が身を以て実践できるように演習形式を通して行う。特に, 実習内容にかかわる教材研究については, 5領域を意識し幅広く研究し, 保育へ応用する方法を具体的に学ぶ。さらに, 実際の実習場面での子どもの反応を予測しながら, 子どもの発達に沿った緻密な保育計画が立てられるようになることを目指す。

### キャリアデザイン(1) 173

#### Career Design(1)

キャリアデザインに必要な自己理解と社会環境の理解を, グループワーク, 幼大連携行事への参加等を交えながら促進していく。また, 人間科学部のディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーにもとづき, 社会人として, 中でも保育・幼児教育・子どもに関わる職業に就く者として, 求められるコミュニケーション力, 読解力, 臨機応変な行動力などの基本的なスキルについて, 講義での解説とともに, グループワークなどの実施により実践的に習得の促進を図っていく。

### キャリアデザイン(2) 174

#### Career Design(2)

就職活動を目前として, 業種別エントリーシート作成, 公務員試験対策の補い, 幼大連携行事への参加等を交えながら, 具体的目標に向かって本格的なキャリアデザインに取り組んでいく。人間科学部のディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーにもとづき, 社会人として, 中でも保育・幼児教育・子どもに関わる職業に就く者として, 求められるコミュニケーション力, 読解力, 情報活用能力などの応用的なスキルを, 講義及びグループワーク等の実施を通して, 自分に定着させる。

### インターンシップ(1)~(2) 175~176

#### Internship(1)~(2)

在学中に就業体験をすることで, 自分の将来を見つめ, 自己の適性を知り, 将来の進路計画に役立てる有意義な機会とする。もとより大学における「講義・演習」, 「実習及び実技」は, 実社会で役立つことを想定して計画しているが, 本科目はより実践的・具体的に実際の産業界における価値観や要求されることを獲得する機会とする。

### 子どもと環境 177

#### Children's Life and Natural Environment

乳幼児期に応じた自然環境や身近な生活環境に親しみ, 様々な事象に興味・関心をもつことの重要性を踏まえ, 保育者として乳幼児が環境との関わりを深めることができるよう, 具体的な援助方法を学ぶ。乳幼児の生活の中でさまざまなものに触れる環境を構成し, 身近な動植物の飼育, 栽培の援助方法, 園外の行事での保育上の配慮事項などを学ぶ。

1. 幼稚園教育要領, 保育所保育指針に示される領域「環境」の位置づけを理解する。
2. 環境構成の重要性に注目した指導計画を立案し, 環境に応じた援助方法を習得する。
3. 子どもの身近な環境が与える発達の価値を理解し, その意義を説明できる。

### 海外研修 178

#### Study Abroad Program

オーストラリアのシドニー近郊にあるウーロンゴン大学における研修のための事前・事後指導を行う。さらに, ウーロンゴン大学教育学部において, オーストラリアの幼児教育, 保育教材, 幼児教育施設研修の事前・事後の授業を受け, 実際にオーストラリアの幼児教育施設での研修を行う。さらに, 保育・幼児教育にかかわる英語の授業を受講する。オーストラリアの歴史と文化, 先住民についての学ぶ。そして, ホームステイの経験を通

して、オーストラリアについての理解を深め、外国人と英語でコミュニケーションする楽しさを体験する。事後指導として、オーストラリアでの体験を振り返り、成果を発表する。

### 子育て支援演習 179

Seminar on Child Rearing and Care Support

学内子育て支援センター「ぴっぴ」においての実習を自主的に行う。地域の子育て支援を実践的に学ぶ。実際に親子を観察し、親子と関わる実習をしていく。2年生から4年生にかけて、実習の課題を実行していくことで力ある地域の子育て支援者の養成をしていく。

### 食農文化と子育て(1) 180

Culture of Food and Farming for Child Care(1)

食農文化は、幼少期からの心の教育として重要であり、土づくりから収穫・利用まで、いのちを育み、利用する体験を通じて、共生、循環、多様性を実感することで、これを生活の中で実践・展開できる「持続可能な環境と社会を担う人間」に必要な基礎力を培うことができる。本授業では、食農文化に関わる基本を実践的に展開することで、知識と理解を深めていく。また、自らの積極的な労働を通し、作物を栽培する楽しさ、収穫の喜び、人間と自然との調和、自己の責任と他者への協力の姿勢の大切さを習得させる。

### 食農文化と子育て(2) 181

Culture of Food and Farming for Child Care(2)

食農文化は、幼少期からの心の教育として重要であり、土づくりから収穫・利用まで、いのちを育み、利用する体験を通じて、共生、循環、多様性を実感することで、これを生活の中で実践・展開できる「持続可能な環境と社会を担う人間」に必要な基礎力を培うことができる。本授業では、食生活の構造変化や乳幼児期の食環境や食育の歴史を学び、具体的な食育活動の実際を現場の栄養士から学び知識と理解を深めていく。また、自らの積極的な労働を通し、作物を栽培する楽しさ、収穫の喜び、人間と自然との調和、自己の責任と他者への協力の姿勢の大切さを習得させる。

### 児童学入門 182

Introduction to Child Studies

児童学科で学ぶ学生にとって原点となる、児童学全体に関する各分野の入門的講座である。これからの4年間で基礎、専門の科目を数多く履修することになるが、それらの科目への向き合い方、学び方の心構えと基本的な視点、子どもを理解する上での各科目の必要性について理解する。

### 基礎ゼミ 183

Basic Seminar

大学において主体的に学び、自主的に研究する姿勢を育成するための、スタディスキルズの習得に取り組む。基礎学力としての受講の心得やノートテイク、資料整理法、文章作成能力と読解力のもととなる文章の要約と作文技法、問題解決能力に直結する研究課題の設定方法、資料収集力、資料分析力、プレゼンテーション能力を段階的に学ぶ。具体的には、研究倫理についての学びを踏まえ、「特別研究」「卒業研究」に繋がる身近なテーマを課題として設定し、資料調査を経て、レポートにまとめると共にパワーポイント等を用いて口頭発表するという一連の経過を体験的に学ぶ。

### 特別研究 184

Advanced Seminar

研究を行うための基盤となることを学ぶ。自ら興味と関心のあるテーマを模索し、テーマに関係のある指導教員の指導と助言を得ながら、文献研究、フィールド調査、実験等の研究方法や研究倫理について学ぶ。まず、資料の集め方を学び、実際に図書館やインターネットを使って、テーマにかかわる文献をできるだけたくさん集める。集めた文献を幅広く読み、自分の興味と関心がどこにあるかを探索する。テーマが設定されたら、集めた文献の中で先行研究にあたる文献を選択し、さらに最新の文献を探し、読みこみ、まとめ、研究室ごとにプレゼンテーションを実施する。

### 卒業研究 185

Graduation Studies

学生生活における学問研究の総まとめとして、「特別研究」の先行研究を基盤にして、自ら興味と関心のあるテーマを設定し、テーマに関係のある指導教員の指導と助言を得ながら、研究目的を明らかにし、研究方法を決定する。各自が計画したテーマについて、研究を実施する前に、研究の構想から調査の実施などについて中間発表会を各研究室に置いて実施する。研究の構想が決定したら、研究方法に従って、研究計画を立て、文献研究、フィールド調査研究、実験研究を行い、その成果を「卒業研究論文」としてまとめ、指導教官に提出する。また、研究の成果は、全員の学生が卒業研究論文発表会で発表する。各自の卒業研究論文概要は大学にて製本し、卒業研究論文と共に保存する。また「卒業研究概要データベース」を作成する。